

月刊 もぐら通信



Mole Communication Monthly Magazine

2021年9月1日 第106号 初版

www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

「こどものころ、はじめて「非ユークリッド空間」というものの存在を知ったとき、私はひじょうな不安とまどいを感じたものだった。私にはまだ、現実そのものと現実の説明とを、区別する方がなかったのだ。平行線が交わる世界と、交わらない世界とが、同じ一つの世界であり、それぞれその同じもののちがった説明にしかすぎないなどという考えにどうしてもなじむことができなかった。」

(「記録と写真」全集第7巻、139ページ) : 1957年4月21日)



非ユークリッド空間としての扇子1



非ユークリッド空間としての扇子2



非ユークリッド空間として箱男

【日本文化をトポロジーで解説する「内なる辺境」シリーズ(2)：扇といふ名前のトポロジー扇子。】

前回の幕内弁当は結局、**包む、凹に入れる、仕切る**(切断ではない)、**穴を開けて通す、といふ四つのこと**から成り立ってゐるのです。さて、それでは、この扇は、**折りたたむ**、といふことから成り立ってゐることが判ります。朝日と波を折りたたんでしまふ、文字通りに**仕舞ふ**、仕舞つて仕舞ふ。と、考えると、仕舞ふことと折りたたむことと包むことは通じてゐることが判ります。しかも三角形の要(かなめ)で、論理的にのみならず物理的にも、平安朝の貴族も松ヶ枝も折り畳んで一つに、即ち1、即ち存在にしてしまふ。ヨーロッパの哲学用語で表せば、幕の内弁当も存在、畳んで1になる扇子も存在といふことです。逆にヨーロッパの存在といふ概念を打ち開けば、ああら目出度や、本朝にては朝日が登る、平安朝の貴族も現れるといふ事になる。これが言葉の世界、概念の世界、安部公房の世界、言語機能論の世界です。即ち、コモン君がデンドロカカリヤといふ植物に変形する。登る朝日が扇子に変形する。これが数字と記号を使はない、自然言語によるtopologyについての説明です。存在が類概念、目出度く登る朝日が種概念とアリストテレスの論理学では云つてをります。この哲学者は西暦2400年ほど前の古代ギリシャ人ですが、真理は古今東西不変であり、従ひ普遍です。

安部公房の広場 | s.karma@molecom.org | www.abekobosplace.blogspot.jp



『S・カルマ氏の犯罪』最後に登場する非ユークリッド空間を創造する映写機

目次

- 0 目次…page 2
- 1 記録&ニュース&掲示板…page 3
- 2 『周辺飛行』論（１９）：意味もなく視線を宙におよがせる——周辺飛行１６：岩田英哉…
page 11
- 3 全自動ベビーカーのデッドヒート：第三回 発狂するのは誰、見るのは私：木石岳…page 22
- 4 安部公房のアメリカ論（４）：アメリカ人は冷戦が始まると何故いつもUFOを目撃するのか？：
岩田英哉…page 28
- 5 サンチョ・パンサを求めて（３）：福田恆存の批評と現代と共産主義者の思考欠陥：岩田英哉…
page 52
- 6 リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（４９）：第２部 XXIV：“ああ、このよろこび、
いつも新しく、緩（ゆる）くした粘土の中から生まれてくる。”：岩田英哉…page 60
- 7 ネット・メディア論（２）：マス・メディアとは何か（２０世紀）：次号とします。…page 71
- 8 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（２）：I 《わたし》とは何か、《わたし》は何処に
ゐるか：次号とします。…page 72
- 9 編集後記…page 75
- 10 次号予告…page 75

- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 73
- ・本誌の主な献呈送付先…page 74
- ・本誌の収蔵機関…page 76
- ・編集方針…page 76

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

ニュース&記録&掲示板

The best tweets 10 of the month



セレン@1112seiren Aug 15
安部公房の話がわかる彼氏が欲しい…
セレン@1112seiren Aug 15
もう諦めて安部公房読も



該当なし。

今月の友達

長 順平@boa_cho Aug 22

【次回出演】安部公房『友達』

とても有難いことに主役の人物を演じることになりました
舞台では初の主演です！

重責ですが、一度は演じてみたかった安部公房の世界を、多くの方に、このメンバーだからこそ届けられるものを通して、全力でお伝えできればと思います！ぜひ六本木までお越しを



今月の他人の顔

ぶつく おふたろう@bookofftaro Aug 21

セコンド アーサーハミルトンからトニーウィルソンへの転身
さすがツタヤ発掘良品 不穏すぎるカメラワークが凄まじい。
ストーリー自体はよくある題材だが飽きさせず終始謎めいていた。転生がテーマな為どこか宗教的というかオカルティック

安部公房の他人の顔を思い出した つーかこのデザイン怖すぎる

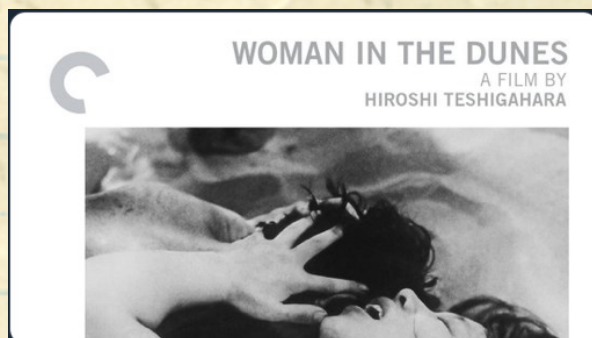


今月の砂の女

Landolt-C@Landolt_C 17h

勅使河原宏『砂の女』（1964）。原作・脚本は安部公房。海辺の砂丘地帯で、砂穴の中の未亡人の家に閉じ込められた男が脱出を試みる。自由に関する哲学的省察と官能的な描写。

<http://amazon.jp/dp/B01FRMOXA8>



砂利@kmnkkzh Aug 22

Replying to @atu_iku

砂の女- 安部公房-



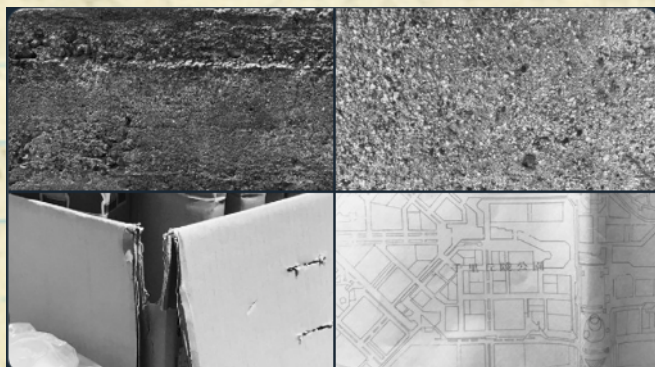
今月の俳句

元・中崎町ぎやらりーウォーター・ベア中の人@kouzinsukii Aug 21

見渡せば安部公房のいない夏

壁 箱 砂 地図

ユープケツチャ



今月の戯曲・上演

新地正洋（二輪明宏）@xindishengtian Aug 18

本日未必の故意の最終日です。チケットは僅かですが是非絵空箱へお越してください。お待ちしております。

#絵空箱

さんらん@SanranTicket Aug 14

#さんらん「#未必の故意」作 #安部公房

本日8/14(水)は開演19:00（開場18:30）。

前売・当日券とも、販売を終了いたしました。

8/15(木)18(日)もほぼ満席ですが、8/16(金)17(土)はまだ余裕がございます。

#絵空箱(有楽町線江戸川橋駅1b出口より徒歩2分)にて、1ドリンク付。

お早めにご予約ください。



●さんらん「未必の故意」
 8、9、14日午後7時、10、
 11、13、16、17日午後2、7
 時、12、15、18日午後2時、
 江戸川橋駅・絵空箱。とある
 小島を舞台に、島民たちが計
 画殺人を「未必の故意」に見
 せかけようと画策する物語。
 同調圧力や差別意識など、閉
 鎖的な島で抑圧されながら生
 きる人たちが抱えるコミュニ
 ティーの問題を描く。作：安
 部公房、演出：尾崎太郎。3700
 円（1ドリンク付き）。未就
 学児不可。要申し込み。080・
 5032・6986。

SteFoyLesLyonFr@SteFoyLesLyonFr Aug 16

一昨年だったか、イギリスの学校のSixth Form（高校）でA-LevelではないがIBの英語の授業にゲストスピーカーと呼ばれて安部公房の『未必の故意』について女子高生たちに解説をしたことがあった。ドナルド・キーンの見事な翻訳があったので、

本歌はじめ@motoka_hajime Aug 16

#今日の一冊

今月の箱男2

本歌はじめ@motoka_hajime Aug 16

本日紹介するのは「箱男」

作者は安部公房。段ボール箱を頭からかぶり都市を徘徊する、引きこもりの極地に至ったような存在の箱男。自身の存在証明を捨て、なにを得るのか。箱男になるためのレシピもあり、1度は試してみたくなるかもしれません



今月の反文化大革命

西村幸祐@kohyu1952 Aug 15

Replying to @kohyu1952 @naito_yosuke and @zshinbun

これはシナの民主活動家と思しき人の作品。1967年に三島由紀夫が安部公房、川端康成、石川淳に呼び掛けて文化大革命への反対アピールを発表した事に感謝する気持ちを表している。表現の不自由をテーマにしたと言っていい。半世紀以上経過した21世紀のこんなリプに三島由紀夫も驚いているだろうね。



西村幸祐@kohyu1952 Jul 9

メディア・リサーチセンターのボーゼル代表がこの動画で述べる内容は非常に深刻で日本も全く同じ状況だ。巨大IT企業が国家権力以上の暴力で検閲を行なうのは強制収容所と同じだ。文化大革命がシナだけでなく50年後に全世界に広がっている。当時、三島由紀夫と安部公房という世界的文学者が何をしたのか？

今月のベケット

塚本物語。@tsukamoto_mono Aug 16

本はいいぞ本は。本当にいいぞ。いいところあげたらきりが無い、いや、人それぞれ良さって違うかしらん。それくらい色々な魅力が詰まってるぞ。好きなのは安部公房、フランツカフカ、戯曲だけどサミュエルベケットだぞ。



長谷川龍生氏死去

美月 麻希@m_mitsuki Aug 21

大阪文学学校の前校長、長谷川龍生さんは、詩人なのでわたしが通教の学生だったときの講義が唯一の接点。ふわっとしたお声、ふわっとした外見が印象的ですが、熱いものをお持ちだとわかりました。安部公房のWikipediaにお名前が出てきます。1957年ごろ一緒に活動されていたんですね。合掌

乃木幸夫 @yukio_1118 · Aug 21

詩人の長谷川龍生さんが亡くなった。91歳。私が大阪文学学校に在学していた時の校長だった。氏からは合評会で、私の詩に対してボロクソに言われたことを覚えている。それでもプロから批評されたことは大きな喜びであった。少なくとも、大阪文学学校に17年間在籍したことで「書きグセ」がついた。

今月の安部公房映画上映

ホッタタカシ@t_hotta Aug 18

9月から川崎市市民ミュージアムで始まる「現代音楽と日本映画の交差点」にて、安部公房原作脚本、勅使河原宏監督の『おとし穴』、『砂の女』、『他人の顔』が上映されます。 <https://kawasaki-museum.jp/cinema/18700/>

今月のヤマザキマリ

『プリニウス』公式ツイッター@plinivs Aug 15

★本日8/15(木) 20時5分～21時55分 NHKラジオ第1 - 高橋源一郎と読む「戦争の向こう側」 - 高橋源一郎さんが戦争にまつわる文芸作品をゲストの伊藤比呂美さん、塚本晋也さん、ヤマザキマリさんと共に朗読し読み解きます。ヤマザキマリ担当は安部公房の「闖入者」です。

海老原いすみ@ebiharaism Aug 15

安部公房『闖入者―手記とエピローグ―』

伊藤比呂美さん) どうして安部公房を？

高橋源一郎さん) 日本の物を読みたくなくて、偶然イタ

リア語に翻訳されていたのが安部公房だったそう

ヤマザキマリさん) よく通っていた文壇のサロンで、日本の事を知らなかったのをバカにされて「お前これ読め！」って



今月の他人の顔2：破れ傘刀舟悪人狩り

蘭之介@akugyo_zanmai Aug 18

今日の破れ傘刀舟悪人狩りはさすがにパクリの謗りを免れないだろうなあ
何せ題名がズバリ「他人の顔」なんだから
話は面白かったけど…

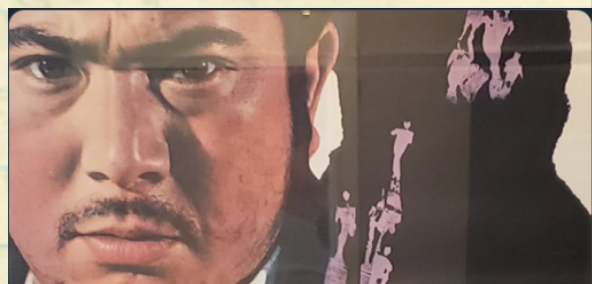
#破れ傘刀舟悪人狩り #萬屋錦之介
#安部公房 #KBS京都



今月の新刊

東京湾@7FppErf56RkGQxi Aug 16

安部公房の「密会」が新刊として出ているということは、「死に急ぐ鯨たち」もいずれ再刊される可能性があるということでもいいのだろうか



今月の燃えつきた地図

メガネの小池@sendaihagim Aug 14

国立映画アーカイブで原作・脚本=安部公房、監督=勅使河原宏の「燃えつきた地図」を観る。昔"砂の女"や"他人の顔"でよう分からん気色の悪さを感じたが、エエトシこいて観ても…勝新太郎 vs 市原悦子の濡れ場…なんてもっと生理的にバツです！失踪者を探して"自分が失踪する"ってのは少し分かるけど…。

国立映画アーカイブ@NFAJ_PR Jul 2

〈逝ける映画人を偲んで〉7/9（火）

7:00pm、8/14（水）3:00pm上映の

『燃えつきた地図 THE MAN WITHOUT A MAP』（1968）は、大映にて多彩な作品の撮影を手がけた上原明（1934-2018）が斬新なカメラワークで勅使河原宏×安部公房の世界に挑んだカルト作。勝新太郎、市原悦子、渥美清の怪演にも注目。



今月の安部公房本人

迷言妄語@s8foG7DH44rRApy Aug 14

(答え)

$$98765432 \times 9 = 888888888 = 111111111 \times 8 \dots ①$$

$$111111111 = 12345679 \times 9 \dots ②$$

①&②

$$12345679 \times 8 \times A$$

$$= 98765432 \times 9 = 111111111 \times 8 = 12345679 \times 9 \times 8$$

【A = 9】

[数の様式美、如何でしょうか・・・]



安部公房の中学校の同級生

暇(itoma)@itoma_tech Aug 16

旅順工科大学を飛び級で進学してめちゃめちゃ優秀だったおじいちゃんが、中学で同期だった安部公房(後、東大医学部卒)のこと「あいつはそんな頭良くなかった」って言ってた話、生涯の宝物にできるレベルで好き

今月の燃えつきた地図2

ヤブナル@yabunaruyabunar Aug 14

今日は国立映画アーカイブで「燃えつきた地図」を見る。

安部公房原作、勅使河原宏監督のアート寄りなサスペンス。

撮影は斬新なんだけど、謎な描写が多くて意味不明。同じようなジャンルで言うとデビッド・リンチの「マルホランドドライブ」かな？何回も見たいとは思わなかったけど。



今月の島田雅彦

島田雅彦@SdaMhiko Aug 12

安部公房氏と2ショット。1987年頃。巨匠とのやり取りについては『君が異端だった頃』に詳しく書きました。ジャンケンをして、安倍氏が勝ったところのように見えますが、核戦争について話しているところです。



今月の読書会

ホッタタカシ@t_hotta Aug 12

【安部公房読書会】10月12日（土）、東京・安部公房・パーティーの読書会を開催します。課題本は『飢餓同盟』（1954）。会場は新装した荻窪ベルベットサン。開場16:30、開演17:00の終演20:00。料金¥1500（1D付）。詳細・予約はこちらのサイトからどうぞ！

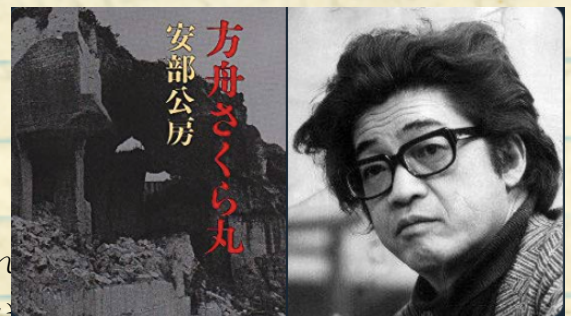
<https://kokuchpro.com/event/6ca7bf788741f4f554afc1831feb7fa1/>… #TAP_MTG

今月の方舟さくら丸

モンタナS@yyNnMYDvOfsjIEH Aug 11

#方舟さくら丸#安部公房

八十年代の安部公房だが古くはない。シェルターを作り船長になろうとする男と周りの人間達を描いてるが何時もの奇妙な感じは残るが、それほど何時もより不快感が少なかったのを覚えている。安部は元々SF畑の人だと思いが読む人はこの作家を難しく考えすぎて読み損なう。



安部公房の恋文

山中剛史@ymnktakeshi Jul 6

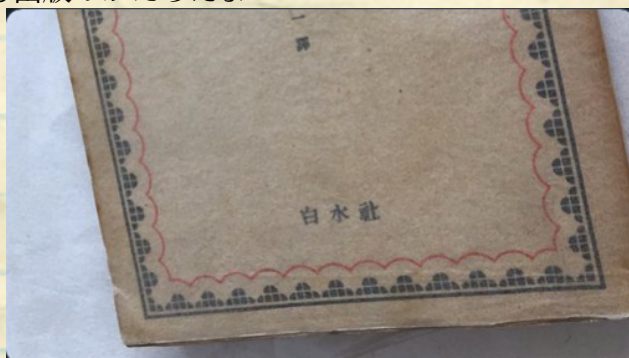
七夕を見てきましたが、安部公房の満州時代の恋人へ宛てた戦後作家になってからのラブレターが、奥さんに見つからないよう配慮が書かれていたり生々しく大変面白い資料でした。ようやく会った？後の手紙では名前は全てイニシャルになるなど…こういうの出てくるものなんですね。



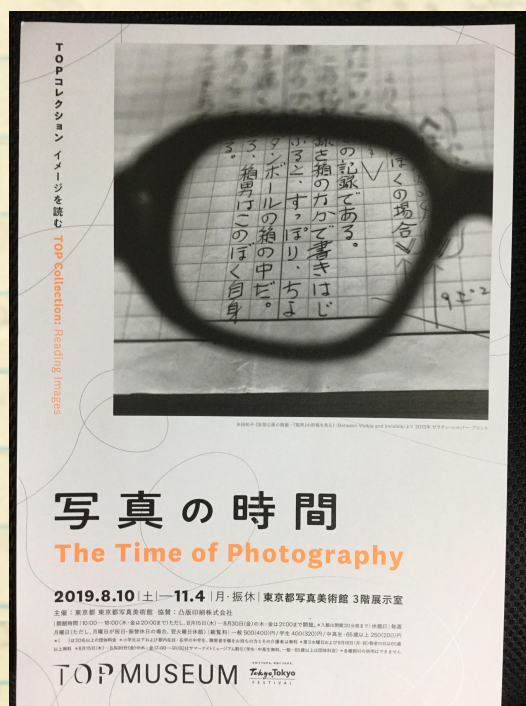
今月の審判（カフカ）

共和国@Naovalis Jun 19

日本で最初のカフカの単行本は、本野亨一訳『審判』。1940年10月に刊行されて、ある研究書によると当時は6部か7部しか売れず、そのうちの1冊を購入したのが安部公房だったとか。売れなかったとはいえ、太平洋戦争前夜に本書を出したこの編集者を、後世のわたしは支持したい。これも出版のかたちだよ



今月の箱男3



第105号の訂正版

安部公房の外賀逸男さん宛の書簡の復刻文字起こしに数行の抜けあり、またその他書簡の時系列的順序に訂正の余地あるやもしれず、調査検討の上、次号までの間に改訂版を発行します。

『周辺飛行』論

(19)

3. 『周辺飛行』について(14)

『意味もなく視線を宙におよがせる——周辺飛行16』

岩田英哉

この前回の「周辺飛行15」と今回の「周辺飛行16」の間に「「安部公房スタジオ」旗あげ」と「低迷する現代日本演劇を語る」といふ二つの談話記事があり、「周辺飛行16」は、いよいよ安部公房スタジオの立ち上げが本格化した時期の周辺飛行であることが判ります。

ここで安部公房の論じてゐるのは、前回の周辺飛行での「「ゴム人間」につづいて、ふたたび心理的なものと生理的なものとの相違について考え」ることで、以下5つの例題を論じ、その意図を明確にして俳優に伝えることを目的として書かれてゐます。

この5つの例題の後に置かれてゐる「心理的な表現」と「生理的な認識」の関係に関する説明は、後者は前者のための補助手段であるといふ。普通に考へれば「生理的な認識」といふ言葉の組み合わせはあり得ないものです。普通には認識は生理とは結びつかない。認識するのは理性であり、生理は感じたり覚えたりするものですが、しかし、安部公房はこの組み合わせを意図的に組み替へて「生理的な認識」とするのです。これが俳優の舞台で見せる「心理的な表現」のための補助手段といふわけです。

安部公房の説明を読むと、5つの例題の趣旨は俳優たちに「心理的な通念や解釈にさまたげられて、生理的表現を見失うことがある」ことに注意を促すことであること、「心理的な表現を理解するために、生理的な認識は欠かすことの出来ない補助手段だ」といふこと、しかし生理的な認識があつても心理的な表現があるといふ「逆はかならずしも成り立たない」といふ事を述べてゐる。これが俳優に伝へたい事である。といふ事は、安部公房が俳優の肉体をもつて実現しようとしたものは、その目的と手段の連鎖の可逆性のあり得る場合、あり得ない場合を体感してもらつた上で、俳優に「心理的な表現」と「生理的表現」の一致した状態と其の結果たる表現を知つてもらふといふ事、これが実践面でのニュートラルであり、安部公房スタジオの訓練であるといふ事になります。

そのために用意する安部公房の舞台設定は、「周辺飛行11」の場合同様の公園とそのベンチである。しかし、「周辺飛行11」と異なるのは今度は俳優は一人で腰掛けてゐるといふこと。ここの説明を読むと安部公房が何故公園といふ設定を好むか、その理由が解ります。それは「ある程度つねに他人の視線にさらされながら、しかもその視線を意識せず、いちおう一人だけの世界を維持できる」からです。やはり、ここでも視線といふものが出てくる。意識する意識されるといふ問題が出てくる。他者との関係をどのやうに意識して理解をし、これを体感して表現するかといふ演技のための主題と動機はゴム人間の訓

練以来変はらない。

さて、このベンチに腰掛けてゐる俳優に「君はそこでよろこびをかみしめている。いくら平静を保とうと思つても、あふれ出す感情を隠しきれない。」といふ、役者にこの、生理的ではなく心理的な演技を指示した上で、これは「よろこびをかみしめる演技を演じてゐる俳優を演ずる、という例の類型」を自分は演じてゐる事に気付かせて、これは心理的演技ではなく、生理的な誇張をした演技であるのでダメだといふことを知つてもらふ、例題1は、そのための例題。

例題1が演技の心理的な類型と生理的な表現の混同を知つてもらふことが眼目であるのに対して、例題2は、今度は例題1に対する心理的な表現を求めることに「対応する」生理的なものが何かを考へさせる例題です。安部公房はこれを（怒り、悲しみ）の二つを一對にして俳優に教へるのである。怒りは能動的な感情、悲しみは受動的な感情とし分類して説明する。これが、安部公房の云ふ例題1のよろこびに対する「心理的対応」であるといふ。

よろこびに怒りと悲しみが対応する。（よろこび、悲しみ）といふ組み合わせ、また（よろこび、怒り）といふ組み合わせを考へるといふ事は、安部公房の云ふ「対応」とは正反対のものを考へよと言つてゐるのだ。これは安部公房用語の「対応」といふべきでせう。

このいずれも「例題1の類型的対応」であつて、「演技を演じてゐる俳優を演ずる」といふ型芝居であるといふのです。

ここから先の例題3、4、5は実に安部公房に独特のもので、これは自分を実験台にして、心理・生理の感覚と、眼球の動きと横隔膜の動き（意志的に横隔膜を動かす事）と、この関係を変化させる事に伴ふ感情の変化に関する自己観察をしたに相違ない。さうでなければ、これほど確信をもつて書かれる、一寸類例を見ない言葉になる筈がない。さうであれば、安部公房の以下の説明は、確かに「類型的対応」ではなく、型芝居でもないものの演技の基礎になつてゐる。本当に奇妙な安部公房の世界です。この演技をあなたがすると其のままデンドロカカリヤか赤い繭に変形するのではないかと思はれるほどです。

例題3では、あなたは公園のベンチに腰掛けてゐるが、しかし今度は周囲を意識し、他人を意識する事なく、また例題2で知つた心理的な感情を「排除して、気持ちを空白状態におく。注意を自分の視線に集中する。見えている対象にではなく、視線そのものに集中する。」といふことをするのです。

ここからが安部公房の超越論の世界です。

問：一体普通に考へて視線が視線自体に集中するなどといふことがどのやうにして可能でありませうか？

答：S・カルマ氏が壁になつた如く、あなたは視線になれば良いのである。

問：如何にして我は視線になることを得るや？

答：「意味もなく視線を宙におよがせる」事によつて。

といふ禅問答が成立するのであります。

これは当人の意識の状態。他方、観客から当人を見れば、それは「観客には放心の表現として映る筈だ。」だから、安部公房曰く「この状態を、今回の練習問題の原点として把握してほしい。」

安部公房がここでいふ原点といふ言葉の意味は基本としての「ゼロのニュートラル」といふ意味である事、このことから始まるニュートラルといふ概念についての説明は「再び肉体表現における、ニュートラルなものの持つ意味について。」と題した「周辺飛行18」に詳しい（全集第24巻、146ページ）。

「周辺飛行18」では、「意味もなく視線を宙におよがせる」事、即ち私の意識が視線自体になることを、もつと一般化して「ニュートラルというのは、要するに、存在自体が表現として成り立つための、基本条件なのである。」と明確に書いてゐます。S・カルマ氏が壁になり、壁自体になつたといふこと、これがニュートラルといふことです。コモン君も同様に部屋の壁になつたのは、ニュートラルになつたのであり、『赤い繭』の無名の主人公も同様です。無名の状態になることがニュートラルといふ状態だといつても良いでせう。それ故にコモン君といふありきたりの名前なのであり、アルゴン君といふ、これは『魔法のチョーク』のやはり同様の主人公の名前なのです。アルゴン君については後年安部公房は次の言葉を残してゐて、これは安部公房スタジオの演技概念ニュートラルとの関係（文脈）で読めば、実はニュートラルである事はどのようなことかの解説になつてゐることが判ります。

「アルゴン——すなわち、Ar。空気中に約一パーセント含まれている、一原子一分子、原子価0（ゼロ）の稀元素であり、無色無臭、沸点低く、化学的に不活性。」（『覚書—『魔法のチョーク』』全集第24巻、446ページ）

これを箱男の状態だといつても、箱男にそっくりなあなたは否定しないでせう。

さて、例題4で安部公房は例題3でなし得た状態に「次の状況を加えてみよう。」と言つて、次の説明をします。これは安部公房が自分で経験した事に違ひない。これを安部公房

は「言葉で表現すれば、「目のやり場がない」あるいは「自分で自分をもてあます」と言葉で言ひ換へるわけですが、果たしてあなたはこれをこのように理解することができるものかどうか。私にはできなかつた。

「宙におよがせていた視線にそって、鋭い光が、君の網膜を射抜く。君は眼をそらす。光源が視線の方向に移動して、再び君の眼を射る。いくら避けても、光は毎秒一、二回のリズムで点滅しながら、正確に君の視線を追いかけまわす。」

続けて安部公房曰く、ここで横隔膜が登場します。

「さて、しつこく追いかけてくる光をかわしつづけながら、ゆっくり横隔膜を上げていき、呼吸にさしつかえない範囲で、出来るだけ高い位置に保ってみよう。その状態で、ゆっくり自分の内部をのぞき込んでみよう。何が見えるか……あらたまつて説明するまでもないはずだ。それが、例題1で君が探し求めていた、隠しきれないよろこびの生理なのである。」（傍線は原文では傍点、以下同じ）

横隔膜が生理に関係する事は解る。そして、それが「心理的な対応」としては、単なるよろこびでもなく、よろこびに対応する「心理的対応」（例題2）でもなく、「隠しきれないよろこび」（といふ感情であつて）且つ其れが其のまま「よろこびの生理」であるといふ、安部公房の超越論に基づく二項対立の否定によつて求めた第三項が「よろこびの生理」といふ感情といふ心理でもなく単なる「よろこびの生理」でもない第三項としての「よろこびの生理」である由縁が「隠しきれない」といふ形容詞にあるといふ事、これが如何にもtopologicalで実に安部公房らしいのです。これがニュートラルといふ演技概念であり、「よろこびをかみしめる演技を演じている俳優を演ずる」のではなく、型芝居ではない演技だといふのです。確かに、このやうに、

ニュートラルの演技は〔（生理、心理）、（感情、論理）〕の十字路にあり、この均衡の交差点は、横隔膜を上げる事によつて出現するのだといふのです。これが、ここに生まれる〔（心理であり且つ生理であり）且つ（心理ではなく且つ生理ではない）〕といふ第三項であり、この出現せる第三項自体がニュートラルである。

この論理を私たちは既に何度も初期安部公房の小説観、否、存在観として読み、知つてをります。再掲します。

「安部公房の名付けた新象徴主義哲学といふ「この哲学とは『詩と詩人（意識と無意識）』に拠つて簡潔に言へば、二項対立の両極端の項を否定して、自己喪失による記憶の喪失を代償に（この否定の中に自分自身の否定を、この否定とは自己喪失と記憶喪失と意識喪失のことにほかなりませんが、このやうな否定を含むといふことです）、果てしない

垂直方向（時間の存在しない方向）に次元展開を繰り返した果ての究極に観る（自己の反映としての）第三の客観、即ち存在の創造をするといふ方法論でありました。ここで

- （１）観ることと
- （２）自分自身が存在になることと
- （３）存在自体の出現

これら三つが一つになつてゐます〔註１〕。ここにも３といふ数字があります。

安部公房の、これが創作の秘密であり、一生を貫く創作のための方法論です。これは、コンピュータの基礎であるブール代数による二進数の論理演算の論理によれば、否定論理積といふ論理に当たります。これが、一生の安部公房の生きる論理であり、安部公房の「現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学」であるのです。

〔註１〕

（１）観ること

これもリルケに学んだ事です。以下中埜肇宛書簡より引用します：

「中埜君、
御變りありませんか。昨日やつと旅行から歸つて参りました。永い旅でした。丁度リルケがロダンから學んだ如く、僕もリルケから「先ず見る事」を學びました。」（『中埜肇宛書簡第５信』全集第１巻、９２ページ）

安部公房の詩に『観る男』といふ詩がある。（全集第１巻、１３３ページ）ここには、既に「明日の新聞」が「書き了へた」「未来の日記」とし出てくる。

また、汎神論的存在論の形象（イメージ）が、後年の海や洪水などに通ずるものとして、次のやうに歌はれてゐる。

「此の果てしない存在にとりかこまれて、あふれ出た透明な涙を両手に受けるのは……？唯一未来の日記を書き了へた時に……。」

此の詩には、これ以外にも、転身、沈黙、「僕の中の「僕」」の話法、出発、忘却といふ、安部公房文学にとって本質的な用語が書かれてゐる。

（２）自分自身が存在になること

「詩人、若しくは作家として生きる事は、やはり僕には宿命的なものです。ペンを捨てて生きるという事は、恐らく僕を無意味な狂人に了らせはしまいかと思います。勿論、僕自身としては、どんな生き方をしても、完全な存在自体——愚かな表現ですけど——であればよいのですが、唯その為に、僕としては、仕事として制作と言ふ事が必要なのです。これが僕の仕事であり、労働です。」

（『中埜肇宛書簡第８信』（１９４６年１２月２３日付）、全集第１巻 １８８ページ下段）」

（３）存在自体の出現

『詩と詩人（意識と無意識）』より引用します。ここでいふ第三の客観こそが、安部公房のすべての主人公

の最後に観る究極の存在のことなのです：

「 諸々の声は吾等の魂が夜の本質にふれた所から始まる。それが様々な次元に展開されて言葉となる。それは自己否定＝自己超越の形を以て意識の中に捉えられる。物それ自体、云い代えれば夜の直覚が展開する自体として或種の象徴的予感を産みつける。その中にこそ実存的意義を失わない、客観なる言葉を生み出した本源的な内面的統一に反しない、第三の客観が視視されるのではないだろうか。

如何なる表現も主観を通してのみなされ得ると云う事は明かである。主観的体験のみがあらゆる意識を言葉たらしめるのである。そして当然、生存者としての人間各個の内面的展開次元の相異に従って、その言葉の重さ（含まれている次元数）の相異が考えられる。主観はその魂の夜の本质にふれる程度によって様々な重さを持つ。

では此の主観のつもり行く次元展開の究極は、一体何を意味するのであろうか。その時人間の魂は限りない夜への切迫を体験するのである。夜の直覚は単なる概念ではなくなり、行為・体験・方法の中に現実的な姿を表すのである。そして、此の永遠の距離を以てはるかへだたっている究極を、吾等は第三の客観として定義する事は出来ぬものであろうか。」

（全集第1巻、107ページ）

確かに、この存在の十字路では、

- （1）光を避けながらに見ること（光に点滅して見られること）と
- （2）自分自身が其の見るといふ視線になることと
- （3）視線自体である「隠しきれないよろこび」の出現

これらは一体となつてゐる。

それ故に、安部公房は「よろこび」の四文字に傍点を振つたのです。誠に安部公房は論理と感情に繊細であり、且つ表記にも細かく厳密です。

さて、最後の例題5は「例題4に対応する、逆の状態を考えてみよう。」とあつて、この「対応する」の語の用例もまた従前の通り「逆の状態を考え」ることであるといふ理解の正しかつたことが判ります。一体、それでは例題4に「対応する」正反対の場合とは如何なる場合でありませうか。全く論理的に組み合わせの場合を尽くして、以下の、横隔膜の上下動と視線の有無に関する組み合わせについての、次の4つの場合を安部公房は挙げるのです。

- （1）「横隔膜はそのままに」且つ「つきまとっていた光源を消して」且つ「視線を停止させた場合」
- （2）「視線は例題4のまま、光をかわす運動をつづけ」且つ「横隔膜だけを逆に最下限まで下してみた場合」
- （3）「視線も停止し」且つ「横隔膜も下げた場合」
- （4）「横隔膜は上げたまま」且つ「視線を停止させた場合」

そして、これら4つの場合に於いて、心理と生理といふ対応関係にあることの表現を論ずるのです。安部公房の云ふところを表にすると次の通りです：

2019/07/31 若田美奈	安部公房の演技概念ニュートラルと〔横隔膜、光源、視線〕、〔心理、生理〕の関係図					
			表現の別			
	横隔膜	光源の有無	視線	心理 ← A →	生理	備考1
場合1	高い位置に停止	無し	停止			
場合2	最下段に	有り	光を回避する運動	悲しみ（近似値として） ↑ B	疚しさ（悪びれて、目のやりばがなくなった状態） ↓ A	
対応する言葉（第三項として）			よるこび（傍点付き）			
場合3	最下段に	無し	停止	「おびえから憧憬をまでも含む、かなり広範な表現だ。」	「ごく単純に受動的弛緩状態に過ぎない」	心理についてのコメント：「さらに細かく言えば、持続するおびえと、瞬間的なおびえでは、同じおびえでも生理的にはまったく異質なもののだ。 生理についてのコメント：「受動的弛緩は、持続するおびえのうちの、そのまた一部なのである。その他このケースに、 絶望 、あきらめ、飽和感、等々の部分が含まれていることは、あらためて言うまでもない。」
場合4	高い位置に停止	無し	停止	攻撃的緊張状態（「驚き、怒り、不安、恐怖、等々の心理のなかの攻撃的緊張を伴う一切を含んでいる」）		「ここでは心理は生理を理解するための補助手段にすぎない」
A：ニュートラルの対概念						

この表のダウンロードは：<https://docdro.id/On1hJJL>

この表の備考2で知ったことを改めて以下に引用して、安部公房の絶望と希望の関係の理解の記録とします。

「安部公房の分類によれば、**絶望**といふ安部公房文学を理解する重要なキーワード（鍵語）は、「受動的な弛緩（生理）であつて且つ「持続するおびえの一部である」（心理）ことが此処で読者に知られる。問題は、**希望**がどこにも出てこないことだ。即ち希望は絶望に対応する正反対の言葉ではなく、とすれば、希望とは絶望と同様に「受動的弛緩」といふ「持続するおびえのうちの、そのまま一部なのである」。つまり、絶望と希望とは同じ仲間であつて、受動的弛緩の一部だといふことであり、生理の言葉ではなく、心理の言葉だといふことである。つまり、私たちが普通考へるやうには、希望は憧憬（あこがれ）にではなく、おびえに属するのである。これが安部公房の希望と絶望の関係です。」〔註2〕

〔註2〕

絶望といふ安部公房文学を理解する重要なキーワード（鍵語）の出例は以下の通り：

（1）1962.6.1：エッセイ「絶望の歌」：全集第16巻、113ページ上段：「これまで僕は、「絶望が虚妄であるのは、希望が虚妄であるのと同じことだ」という、あの名言を、もつぱら、希望でも絶望でもな

い、煉獄的薄明の弁証法的把握なのだと考えていた。しかし最近になって、その文句の配列が、あらためて気になりだしたのである。」

この月は『砂の女』の刊行の月でもありますから、同作の冒頭のエピグラフ「――罰がなければ、逃げるたのしみもない――」にどこか繋がってゐる気配があります。（略）

（2）1965.9.17：「30人への3つの質問『われらの文学』のアンケートに答えて」：全集第29巻、545ページ下段：

「（3）絶望の虚妄なるは、希望の虚妄なるにひとしい――魯迅」。

また、

（3）1973.11：エッセイ「プレス本『洪水』覚え書」：全集第24巻、467ページ：「希望を語るのは容易だが、絶望を語るのはもっと容易だ。飽きずに絶望を繰り返し語りうるほど、人類はまだ希望にみちているのだろうか。」

（4）1984.11.1：『核時代の「方舟」』：全集第27巻、245ページ下段：「筑紫 安部さんご自身には、生きのびるためのプログラムがありますか。安部：いや、ないですね。ただ、ないということが生きるプログラムじゃないかという気がする。結局、絶望的な状況が見えているとしても、絶望はそれ自体が希望の一つの形式だと思うわけです。時代がここまで進んでしまったからには、もはや絶望の対極に希望があるという考え方は捨てた方がいいのではないか。」

上記（4）の「絶望はそれ自体が希望の一つの形式だと思う」といふ発言の真意は、この「周辺飛行16」で読み解いた絶望の理解の正しいことを示してゐる。希望は絶望と同じおびえに属してゐる。

また、『質問箱』（もぐら通信第13号）より更に引用します：

「【質問】安部公房が魯迅の言葉として紹介している「絶望の虚妄であるのは、希望の虚妄なるにひとしい。」という言葉は、魯迅のどの作品にありますか？（H）

【回答】アンケート「30人への3つの質問」（'65/9 全集29 P545）の「最も好きな言葉は？」に対し、安部公房は魯迅の言葉として「絶望の虚妄なるは、希望の虚妄なるにひとしい。」と挙げていますね。これは魯迅の作品集『野草』（1924～26）の中の第七作「希望」に見られます。『魯迅選集第一巻』（岩波書店）竹内好訳では「絶望の虚妄なることは、まさに希望と相同じい」となっています。「希望」は「（中国の）青年の銷沈ぶりに驚いて書いた」と魯迅は述べていて、その考えを集約したエピグラムですね。この言葉にはさらに出典があつて、ハンガリーの詩人・革命家のペトーフイ・シャンドル（ペテーフイなどとも）（1823-1849）の言葉として紹介されています。ペトーフイが友人に宛てた手紙の中の一節である「絶望は希望と同じくたぶらかすものなんだよ。」を魯迅が引用したものということです。安部公房はこの言葉を好んでいて、エッセイ『絶望の歌』（1964 全集6）にも出てきます。また「プレス本『洪水』覚え書」（1973 全集24）では「希望を語るのは容易だが、絶望を語るのはもっと容易だ。」とありますが、これも同意ととってよいでしょう。（編集部）

ここまで安部公房のニュートラルといふ存在概念を整理して理解することができたので、私は此の概念はドイツ語でいふIronie（イロニー；英語ならばアイロニー：irony）に等しい概念だとふことができる。即ち、「いつでも、どこでも、誰にでも」等距離の位置（存

在の十字路といふニュートラルな位置) にゐて、即座に変化に応じて「いつでも、どこでも、誰にでも」成ることのできる精神の能力です。しかし、安部公房は此の能力を精神ではなく、「生理的認識」として問題下降〔註3〕したのです。本来は精神の能力である認識といふ視る力を、肉体と生理と心理に問題下降し、俳優の身体と意識の中に落とし込んでニュートラルと命名した。

このやうに考察して来ますと、安部公房が何故アメリカの文物に終生惹かれて論じ（二篇のアメリカ論がある）、また最晩年に至つても尚アメリカ論を書きたいと念じてゐた理由がよく解ります。この問題下降された「生理的認識」、即ち「いつでも、どこでも、誰にでも」等距離を保持してゐながら同時に遍在するといふ形象（イメージ）は、そのままアメリカ文化の特質だからです〔註4〕。

〔註3〕

「『デンドロカカリヤ』論（後編）」（もぐら通信第53号）より問題下降の定義を引用します：

「2. 「問題下降」とは何か

「問題下降」といふ18歳の時に名付けてゐた此の概念は、安部公房を理解するために、実に重要な概念でした。

問題下降といふ概念を一番解り易く言へば、次の通りになります。

問題下降とは、哲学用語を使つて書いた認識の世界を、日常生活の中で普通に理解できる用語で垂直方向に書き直す行為、即ち其のやうに下方に向かつて下ろして行く行為である。

前者の認識の世界は、全集第1巻の最初に収録されてゐる、安部公房が18歳の時に書いた『問題下降に拠る肯定の批判』の中で「遊歩場」と呼ばれる、安部公房独特のtopology（位相幾何学）の道といふ線（一次元）又は帯（二次元）によつて描かれる（後者ならば特に視覚的にはメビウスの環）、交易または交換のための道であり、位相幾何学的な一筆書きの世界なのです（全集第1巻、12ページ下段から13ページ上段）。〔註1〕

〔註4〕

筆者の書いた安部公房をめぐるアメリカ論には次の4つがあります：

1. 『安部公房のアメリカ論～贗物の国アメリカ～』（もぐら通信第22号）
2. 『安部公房のアメリカ論（2）～『アメリカ発見』を読み解く～』（もぐら通信第23号）
3. 『安部公房の読者のための村上春樹論（中）：Baseballとは何か？～Baseballは旧約聖書の創世記の贗物である～』（もぐら通信第50号）
4. 『安部公房のアメリカ論（3）～贗物の国アメリカ～ドーナツとは何か』（第80号）
5. 『鏡子の家』と映画『ティファニーで朝食を』（もぐら通信第100号）
6. 「安部公房のアメリカ論（4）：アメリカ人は冷戦が始まると何故いつもUFOを目撃するのか？」（もぐら通信第106号）

さて、その上で、この周辺飛行の最後に安部公房は次のやうな芝居の科白を書いて見せるのです。以上の理解から、この科白劇を読み解いてみませう。当然に安部公房の劇ですか

ら二項対立を否定して求める第三項として存在する反劇的なアンチ・ヒーローの劇である事はいふまでもありません。箱男が主人公の劇と言つて良い。

この「次に同じ問題を、もう少し具体的で、複雑な状況にあてはめて考えてみよう」といふ科白の舞台設定は、戯曲『友達』と『魔法のチョーク』の舞台設定を併せたやうな設定となつてゐて、これはいつもの安部公房の設定らしく、まづ部屋があり、そこに椅子が一脚あつて、これは後者のアルゴン君の部屋、そして前者の戯曲の場合と同様の独身者の部屋に接続してゐる台所が此処に隣り合はせにあるといふ設（しつ）らへになつてゐる。役者は二人、俳優A、Bとある。安部公房がこの舞台設定でやり取りされる科白（安部公房は対話と呼んでゐる）に付された作者の事後のコメントは次のやうなものです。

「以上の対話を、最初条件を与えずに演じさせてみよう。その場合の俳優は、ドアの向うの台所にいる人物のことも、また鍋に入れて茹ではじめた物がなんであるかも、知らされていない。演じおえた後で、演じた俳優を含め、見学の俳優とその物体について討論を行つてみよう。手掛りはあくまでも、俳優A、Bの演技である。」

『燃えつきた地図』も、この考へで書かれたに違ひない。といふ事は『箱男』も、また。俳優A、Bを小説の登場人物に置き換へれば、これがこのまま作中人物の対話となります。ここでは敢へて「直接観察の対象とはなっていないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的重症患者1名」（「周辺飛行5－これはある職業的關係によつて」）即ち「いつでも、どこでも、誰にでも」ゐる此の「職業的關係によつてひき起こされた疎外状況の記録」を行間の隙間で独白する第三者・第三項の科白は文字にしません。対話を味はつて下さい。

A（後ろ手にドアを閉め）にはじめたわよ、鍋に入れて……

B 鍋？

A コンロにかけて……

B まさか。

A 本当よ！

B 茹でているんだろう。

A 同じことじゃないの。

B ふつう、煮るという場合は、味付けすることじゃないかな。

A じゃ、茹でているのよ！

B 妙だな……

A おかしいわよ。

B 消毒するつもりだろうか……

（以下省略）

鍋の中にあるものは、タブの場合や（周辺飛行6）や鞆の場合（周辺飛行10）同様、無名の何か、即ち存在なのでありますが、存在が無名であるが故に誰も名前をいふことができないといふ対話になつてゐる。この存在を科白によつて身体表現するといふことが、安部公房スタジオの俳優に課せられた課題なのです。

- （1）鍋の中を見るのであるが、光を避けながら見ること（光に点滅して見られること）と「鍋は隣の台所にあるので見ずに済んでゐる、それとも人物を視るといふことなのであろうか、それとも物音から判断して台所を見遣る演技をするといふことなのであろうか」
- （2）自分自身が其の見るといふ視線になることと「鍋であれ人物であれ」
- （3）視線自体である「隠しきれないよろこび」の出現「もし演技の要求が第三項のよろこびであるならば。しかし、これは科白を口にしながら俳優AとBが実現すべき、謂はば即興的な芝居であらう」

この対話は果てしなく延々と続くやうな気がする。さう云へば、S・カルマ氏は砂漠の中で「ぼくは静かに果てしなく成長してゆく壁なのです。」とあれば、存在である第三項としての「特権的重症患者1名」は、鍋の中で「ぼくは静かに果てしなく成長してゆく壁なのです。」と独りごちても不思議ではありません。その僕といふ一人称に変形する訓練が「周辺飛行16」であるといふことなのです。鍋の中の何かに変形したら「隠しきれない」何かとして生理と心理の均衡点（存在の交差点）に無名の何か即ち存在が出現する。

勿論、いふは易し、行ふは難し。ここから先は安部公房スタジオの俳優AとBに訊くしかありません。

全自動ベビーカーのデッドヒート

第三回

発狂するのは誰、見るのは私

木石 岳

いつだったか、武蔵野線で奇妙な光景を見たことがある。満員電車には程遠いが、そこそこ混み合った車内で、中学生くらいの男の子が、学生鞆を床に置いて、そこにしゃがみ込んでゴソゴソとカバンの中をいじっている。おそらくカバンの中にある何かを探しているのだろうと思うのだけど、多分、教科書か、イヤホンか、水筒か、そのあたりだと思う。彼以外は当然みんな立っているわけで、少し邪魔だ。動いている電車の中でしゃがみ込んでゴソゴソやっているので、足元は非常に不安定で、時折ぐらついて片手を床についたりして一生懸命に探している。その時に、彼の手がふわっと、偶然、目の前に立つ明るい髪の女性のふくらはぎに触れたような気がした。そんな風に見えた。女性はちょっとだけ態勢を変えて、邪魔な中学生を一瞥した。明るい髪の女性は、黒いフリルのミニスカートを穿いていて、黒いハイヒールまで続く太ももとふくらはぎがむき出しだった。ネグリジェみたいな黒のキャミソールは、華奢な体型を不穩に演出していた。中学生の手が、もう一度ふわりと彼女のふくらはぎに触れた。うまい動作だった。だらんと垂れ下がったカバンの持ち手の部分を内側に織り込もうとする動作の流れで女性に触れたのだ。中からノートを取り出して、それを片手に持ったままさらに奥にあるお目当の何かを探ろうとしている。ノートを持った手の甲が、女性の膝の裏のあたりに触れた。ほんの一瞬、本当に綿毛くらいの重量で。女性はさらに態勢を変えて、不快な顔を少年に向ける。多分だけど彼女は、少年の手が偶然彼女の足に触れることには相当に気味が悪いと思っているのだけど、少年が確信犯だとは思っていないようだった。彼は今やカバンの中身を探る演技をしながら、なんとか自然に彼女の脚に触れることに必死だった。彼の目に稲妻が走っているのをぼくは見た。発狂してやがる！ このガキ、姉ちゃんの太ももを見て、犬みたいに発狂してやがるぜ！ ぼくの目にも稲妻が走る。バババーンと記憶が蘇る。まるで『七人の侍』で親を失った赤子を抱きかかえる三船敏郎のように叫びたくなる。こいつは俺だ！ こいつは俺だ！！ ぼくは不条理な世界に苦しむ少年の発狂と痴漢の現場に遭遇したのだ。思春期の只中で、ネグリジェのようなキャミソールとミニスカートを穿いた可愛い子と、強制的に同じ空間で、非常に近い距離で、過ごさねばならない、そして決して触れてはならない、なんと不条理なことか！ ぼくは安部公房の『他人の顔』を思い出す。死に瀕した兵士はセックスを求め、死にかけた街では痴漢が増えるのだ。この少年はぼくであり、そして彼は今死にかけているのだ。ぼくも全く彼と同じように思春期をデッドヒートして、発狂したまま常温の社会生活に溶け込むふりをしていた。

声変わりがはじまった少年たち、初潮がはじまった少女たちが、自瀆の誘惑を知り、そ

の誘惑を自分一人だけの異常な病気だと思い込んでいるあいだの、あの孤独な絶望感……あるいは、誰もが一度は経験する麻疹のようなものにすぎない、最初の小さな盗み（ビー玉だとか消しゴムのかけらだとか、鉛筆の芯だとか）を、自分一人だけの恥すべき罪だと思い込んでいるあいだの、あの屈辱的な絶望感……運悪く、その無知が一定期間以上つづけば、ついには中毒症状をきたして、本物の性犯罪者や、窃盗常習者にもなりかねない。¹

第一に、ぼくは自分に雷が落ちたらいいのにと思っていた。中学生の頃。自殺という言葉の思い浮かべてはいけない気がして、というか、ぼくは自分が好きで、天才だと思っていて、つまりナルシストだったから、自殺というのは完全に自分を否定してしまうわけだ。でも、とても少ない確率で、人はたまに雷に打たれて死ぬ。それは偶然のことだし、自然現象なわけで、仕方がない、となる。多分そういう卑怯な発想だったのだけど、ぼくは雷がなる嵐の夕どきに、傘をなるべく高くさして歩きながら、雷に打たれたら良いのに、と思っていた。ぼくは鳥肌実のネタが録音されたCDを女子たちに聴かせた。鳥肌実の右翼ネタは、危険で、それでいて下品で、面白かった。ぼくはクラスの可愛い女の子に、鳥肌実のネタを前文書き写してメールした。後日、生徒指導の先生に呼び出された。ぼくはクラスの女の子にストーキングをしているかどで尋問されたのだ。教師は、ぼくが彼女に送ったメールを全て原稿用紙に書き写して手に持っていた。原稿用紙数枚にびっしりと鳥肌実のネタ。教師は、これは卑猥なものだと言った。確かにこれは卑猥だった。これを送られた女生徒はぼくに怯えていると言った。ぼくは、彼女を怯えさせるつもりなど全くなかったのに！ 単に、このネタが面白かったのと、そして、この卑猥なものを、可愛い女の子と共有したかったのだ。そうだ、ぼくは発狂していたのだ。教師がぼくに、一つだけ教えてくれ、と言った。なんですか、とぼくがきいた。教師は原稿用紙の「売女」と書かれた部分を指差して、この「バイジョ」っていうのはどういう意味だね？ と言った。ぼくはすこしだけ黙ってから、先生、それは、バイタと読みます、と言った。金で体を売る女のことです。

ぼくは体育のサッカーの授業をサボって教室に帰ってきたとき、同じ学年の女子全員と担任が会議をしているのに出くわしたことがある。当時、体育は男子と女子で分かれていたから、女子は体育館でバレーボールをしているはずだった。しかし実際には彼女たちは体育館におらず、教室で話し合いをしていたのだった。ぼくは、こっそりと聞き耳を立てて、それがぼくについての話し合いであるということを知った。それは、ぼくが修学旅行の時に、女子風呂を覗いたということについての話し合いだった。警察に通報するか、しないか、という内容だった。

修学旅行に行く直前まで、クラスの男子たちは、みんなして、女子風呂を覗くことについてあれこれと話していた。ぼくはそんなことはつまらないことだと思っていたから、その会話には参加すらしていなかった。でも、実際に修学旅行に行って、大浴場にぞろぞろと入っていった時に、誰も覗きをしようとする者などいなかった。みんな、覗

ぞろぞろと入っていった時に、誰も覗きをしようとする者などいなかった。みんな、覗きをするのを恐れていた。それで、ぼくは、どういうわけか、みんなを焚きつけたのだ。おい、お前ら、女子風呂を覗くんじゃないのか？ おい、見てみろ、あの壁を超えたら、女子風呂だぞ！ 実際、それほど高くもない塀の向こう側から、女子たちの騒ぐ声が聞こえていた。おい、これは、覗けるぞ、チャンスだぞ、みんな！ けど、誰もそれに賛同しなかった。がく、マジで覗くのは違うやんか、と。ああそうかい、ほいだらわしが覗いちゃるっちゅうねん、といってぼくは颯爽と塀によじ登り、たった一人で覗きを敢行したわけだ。後ろからクラスメイトの声援。すげえ、がく、マジでやりおったわ、こいつはすげえ、ってな訳だ。

こうしてぼくは修学旅行生でたった一人の変態野郎に成り下がったわけだ。女子たちの話し合いの結果、警察に通報はしない、という結果になったということ、後日担任から聞かされた。ぼくの脳裏には安部公房のあの言葉、見るものには愛があるが、見られるものには憎悪がある。

思春期の発狂地獄で、ぼくはカオスを欲していた。ナンセンスを欲していた。そうしてぼくは安部公房という堅実な発狂者、論理的なむつつり助平に出会ったのだ。ぼくは数学のテストの時間に、テスト用紙を放り出して、安部公房の『他人の顔』を読んでいた。テスト監督に見つかって取り上げられた。テスト監督は、顔を真っ赤にさせて、これは生徒指導に渡します、返却されるかどうかはわかりません、と言った。今までぼくは何人もの生徒が授業中に漫画を取り上げられてきたのを見てきた。どの生徒も、漫画は返却されなかった。ぼくも同じように授業中に、安部公房の『箱男』『密会』『燃えつきた地図』『第四間氷期』を読んできたが、教師は気づいていないふりなのか、本当に気づいていないのか、ぼくの本を取り上げることはなかった。無視されていたのだ。しかし、今回ばかりはテスト中で、しかも普段とは違う教師がテスト監督をしていたので、初めて本を取り上げられた。本は、怖いことで有名な生徒指導に手渡された。例の、鳥肌実事件の時と同じ教師だ。給食が終わって昼休みに入る頃、彼が教室にやってきた。手には安部公房。お前、こんなの読んどるんか、と彼は言った。はい。すごいもん読んどるのお。はい。テスト中はテストに集中しろよ。それだけ言って、本は返却された。彼は、安部公房の『他人の顔』が、彼が今まで他の生徒から取り上げてきた破廉恥な少年漫画『いちご100%』や辻希美と加護亜依の写真集『辻加護』よりも、遥かに度を超えて少年に読ませるべきではない不道德な非推薦図書であることなど知りはしなかったのだ。

——俺一人ではない、俺一人ではない、俺一人ではない……²

そしてぼくは箱男になった。箱男とは、安部公房の『箱男』という短めの小説の中に出てくる一種のホームレスのことだ。頭からすっぽりと段ボールをかぶっていて、足以外は段ボールに全て隠れている。座れば、全身が段ボールに隠れて、見た目はただ地面に大型の段ボールが置いてあるだけのように見える。

中学三年生の美術の授業中に、ぼくは箱男になった。学校にある大きな段ボールをいくつか組み合わせて、大きなものにした。そしてそれを頭からかぶる。郵便ポストのように前方に長方形の窓があつて、窓の内側には透明なビニールのカーテン。これだけで光の屈折が生まれるので、中からはよく見えるが、外からは箱の中身が見えない。その時の美術の授業は確か、画用紙に絵を描くというような内容だったと思う。でもぼくは全然違うことをした。美術室にある段ボールをかき集めて大きな箱に作り変え、それをかぶってみる。そして、ひとまず、小説で読んだ通りの箱男に変身できた。箱をかぶったまま授業を受けて、美術の時間が終わると箱をかぶったまま普通の教室に戻り、そしてそのまま授業を受ける。ホームルームも箱をかぶったまま。そして箱をかぶったまま帰りの支度をして、そのまま学校を出る。途中、駄菓子屋でチョコレートを買った。チョコに手を伸ばすのが大変だった。段ボールの下に切り込みを入れていなかったのだから手は出せなかった。郵便ポスト風の窓から無理やり手を出してチョコをとり、レジまで持っていった。誰にも、何も言われなかった。学校の先生にも、クラスメイトにも、駄菓子屋のおばちゃんにも。

ぼくは、箱の中で少し緊張しながらも、安心していった。なぜ人は、マスクをしたりサングラスをかけると落ち着くのかがよくわかる。誰にも見られることなく、それでいて自分は相手を見ている、という状況を生み出す装置なのだ。着ぐるみを着ることで自己実現を感じるファーマーと呼ばれる人たちなんかもいる。

——俺一人ではない、俺一人ではない、俺一人ではない…… 3

少年は器用に、女のふくらはぎを触っていた。これ以上やると本当に痴漢で捕まってしまうかもしれないギリギリのところ。彼は役者だった。うまいぞ、もっとだ！ 同じように発狂して、いや絶望して、電車に飛び込む少年もいる。そうだ、誰だってそう。ぼくは、少年の向こう側に背を向けて両手でつり革を持つ、高橋ジョージの成り下がりのような男に目を向ける。こいつだって、一緒だ。一步間違えたら、器用に女の子のふくらはぎを触るんだ。向こうに座っているゲイリー・オールドマン気取りの紳士だって同じだ。そういう頃があつたんだ。

電車が駅について、明るい髪の魅力的な女性は、降りていった。少年も降りていく。ひょっとすると、彼女についていったのかもしれない。あてのない旅だ。彼は決して彼女に話しかける勇気などないし、どこかで、例えば彼女がバスに乗り込んだタイミングなんかで、諦めてまた電車に乗って自分の家に帰ることを選択するだろう。でも、今はそれらを考えることなどできない。彼は発狂していて、爆発して死んでしまわないために、常に動き続けなくてはならないからだ。彼は『スピード』のキアヌ・リーヴスだし、スピルバーグのテレビ作品『激突』のようなものだった。

映画版の『他人の顔』で、雑踏の中、仮面をかぶった人々と出くわす場面がある。幻覚のようなシーン。今思えば古臭い手法だけど、ぼくは時折この光景を思い出す。デッドヒートの最中に、なんとか死なないように、電車に飛び込まないように、少年も、ゲイ

リー・オールドマンかぶれの男も、戦っているに違いない。

毎日せっせとタイムレコーダーをおし、印鑑を彫らせ、名刺を注文し、肩書きを刷り込み、貯金をし、カラーの寸法をはかり、歓送会には寄せ書きをし、生命保険をかけ、不動産の登記をし、暑中見舞いをかき、身分証明書には写真を貼り……そのうち何れか一つでも忘れてすりば、たちまち置き去りにされてしまうかもしれないような世界に住みながら、一度も透明人間になりたいと思ったことのない人間がいるとは、ちょっと信じられない…… 4

街中にインスタントなストーカーがたくさんいることを知ったのは、上京してしばらくしてからだった。街には即席の、偶然の、一期一会の、ストーカーたちがいる。渋谷駅の地下鉄構内から地上に出てくるまでの数分の間に、何人もの絶対的な美少女とすれ違うことが出来るだろうか。数えてみたことがある。その結果はもう忘れてしまったけど、全く別の世界に住んでいる、ぼくがこれまで一度も会話したことがないような、そして今後もそんな機会など訪れないように思える、彫刻のように美しい人たち。なるべく相手に気づかれないように、自然に体を見る。すれ違うだけの一瞬。それで終わり。さようなら、名前の知らない美女。そういう時に、ふと、同じような目線を彼女に向ける男がいることに気づくことがある。そして、ぼくと同じようにすれ違いざまに視線を走らせるような男もいれば、そうではなくて、インスタントなストーキングをしている男もいる。つまりだ、その男は、全く偶然に駅で美女を目撃した。そして、あの武蔵野線の少年のように、瞬発的な発作に見舞われて、後先も考えずに彼女についていってしまうのだ。ナンパをするわけではなく、またスカートの中を盗撮するわけでもなく、単に発作的に、動物的に彼女についていくのだ。大概是大学生くらいの男だ。そしてそんな男を目撃したぼくはというと、それをストーキングするのだ。つまり、ストーカーをストーカーするっていうこと。ぼくも、なぜこういうことをするのかはわからないが、瞬発的な発狂でもって即席のストーキングをする男を、同じように即席でぼくも観察する。ぼくは、哀れな男の後ろ姿を観察する。男は誰かと電話するふりをしていたり、SNSを見ているふりをしながらも、巧みに彼女と一定の距離を保っている。彼女に声をかける勇氣はないし、それに、決して彼女はこの男になびかないだろう。女は、まさか自分をこっそりつけている男がいて、その男をこっそりつけている別の男がいるなんて、思ってもいないだろう。もし知ったら、相当に気味が悪いだろうな。そして、彼女が別の地下鉄の改札をくぐったところで、男は追跡を諦める。男の目には稲妻。こいつはこいつで、発狂している。ハナから捕まえることなどできない獲物を逃した哀れな男だ。武蔵野線の少年も女の子の追跡を諦めて、失意の中で帰宅したことだろう。ぼくは鏡を見ているのだ。俺一人ではない、俺一人ではない。これは他人の顔を被っている現代人のおまじないだ。何度も何度も口にする。俺一人ではない、俺一人ではない。僕らは共犯者だ。孤独な痴漢ではない。発狂者よ、周りをよく見てみろ！ 俺がいるぞ！ 発狂する少年はそこら中にいる、がしかし、ぼくはあの奇跡的な落雷から生還した偉大

なる男だ。発狂者は誰、見るのは私。

いくら罪の意識を深めてみたところで、なんの役にも立ちはしないだろう。むしろ、誰もが同じ共犯者であることを知って、孤独から抜け出すことが、なによりも効果的な解決策なのである。⁵

安部公房のアメリカ論

(4)

アメリカ人は冷戦が始まると何故いつもUFOを目撃するのか？

岩田英哉

目次

- I 国際的な戦争を意識するとUFOが出現する
- II アメリカではどのような場合にUFOが出現するのか？
- III アメリカでは最近UFOが出現してゐる
- IV アメリカ人のスーパーヒーローは何故皆空を飛ぶのか？
- VI 第一次冷戦開始直後と第二次冷戦開始直後の目撃者は空を飛んでゐた
- VII ライト兄弟は何故飛行機を発明したのか？
- VIII スプートニクス号の打ち上げ成功と9.11の衝撃
- IX UFOは一体何の贗物であらうか？
- X 『菊と刀』は日本民族の何が理解できなかつたか？

I 国際的な戦争を意識するとUFOが出現する

UFO出現の歴史を紐解くと、いつも戦争の関係してゐることが判ります。戦争直前か戦争中か戦争直後に、そして、ほとんどの場合、といふ意味は十中八九は白人種が、といふ意味はキリスト教徒が目撃するのが、UFO出現の歴史です。さうして、19世紀末から20世紀にかけてアメリカといふ国家が大英帝国に変はつて覇を唱へるやうになると、即ち経済の発展が軍事力の発展でありますから（富国強兵）、その資本主義の発展と共に発展するアメリカのマス・メディアの発達による情報の共有化が同時に広範囲に亘るやうになり（新聞紙、雑誌、ラジオ）、その結果、情報の解釈が大衆化して通俗になるといふその後の情報劣化と頹落の歴史を、このUFOに関する噂話といふべき、または伝聞情報はアメリカを中心に世界中に拡散し、目撃情報発生頻度の時期による多寡はあるものの、また世の人々の関心を惹く程度に強弱はあるものの、一貫してこのやうな状態のまま21世紀の今日に至つてゐる。『人類はなぜUFOと遭遇するのか』より引用します：

「一八九六年十一月から千八九七年四月末の間、カルフォルニア州から米国中西部の地域にかけて、「謎の飛行船」が現れた。その多くは、円筒の気球のようにぼんやりと見えたり、翼やプロペラがついた空中の発光体として目撃された。地球外の訪問者なのではないかと考えた人々もいたが、一八七九年の春が終わるころになると、飛行船の目撃報告は途絶えていき、やがてこの事件は忘れさられた。

その後一九〇三年からその翌年にかけて、イギリス上空で「飛行船」が再び目撃されるようになった。一九一三年にも、同様の目撃事件が起きた。当時、飛行船の正体は、侵略のため偵察を試みるドイツ人の仕業だと見なされた。その他にも、ヨーロッパや米国、カナダ、日本、ニュージーランド、南アフリカといった様々な国で飛行船が目撃された。だが、こういった目撃談は、戦争神経症のせいとして片づけられてしまっていた。」

（カーティス・ピーブル（スミソニアン研究所）著 皆神龍太郎〔と学会〕訳『人類はなぜUFOと遭遇するのか』（1994年刊）の「第1章 前兆」同書12ページ～13ページ）（下線部引用者）

この引用から判る事を整理してみませう。

1. 1896年11月－1897年4月末の期間

この時期は、1898年に始まるアメリカとスペインとの米西戦争の直前であつた。

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/米西戦争>)

2. 1903年－1904年の期間

南アフリカで第二次ボーア戦争が起きる。

「第二次ボーア戦争は、独立ボーア人共和国であるオレンジ自由国及びトランスヴァール共和国と大英帝国の間の戦争（1899年10月11日 - 1902年5月31日）。」 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/ボーア戦争#第一次ボーア戦争>)

3. 1913年

(1) 1912年－1913年：バルカン戦争がヨーロッパで起きた。バルカン同盟諸国（ギリシャ、ブルガリア、モンテネグロ、セルビア）と衰退しつつあるオスマン帝国との間で発生した第一次バルカン戦争（1912年10月 - 1913年5月）と、その戦後処理においてブルガリアと、ギリシャ・セルビアの対立から発生した第二次バルカン戦争（1913年6月 - 1913年8月）からなる。

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/バルカン戦争>)

(2) 同年5月30日：ロンドン条約の締結。バルカン戦争の終結と領土問題の調整に関する条約。

(3) 同年6月10日：セルビアで国王アレクサンダル1世・オブレンovićと王妃ドラガがクーデターにより暗殺される。

(4) 同年12月17日：ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功 [ライト兄弟の飛行機の発明はUFOの目撃に関係があると私は思ふので此処に挙げて後述します。]

4. 1914年7月28日－1918年11月11日の期間：第一次世界大戦

4. 戦争神経症

上記年代の明示されて挙げられた事例以外の事例も「こういった目撃談は、戦争神経症のせいとして片づけられてしまっていた」とあるところから、一体に戦争に関係して神経質になった欧米の人間たちの神経症の一種だと理解されてゐたことが判る。これらのことから、時期的にも戦争の直前か戦争遂行中か終戦直後であり、常に戦争が意識されるとUFOが出現するといふ因果関係が理解されるでせう。

II アメリカではどのような場合にUFOが出現するのか？

上記の『人類はなぜUFOと遭遇するのか』を読んで、その内容を木原善彦氏が短くよく纏めてくれてゐるので、その要約を以つて、掲題の問いに答へます。

「ピーブルズは、UFO神話（本書もピーブルズにならって、UFOにまつわる都市伝説の全体をUFO「神話」と呼ぶことにしましょう）の形成過程を二十世紀後半のアメリカ合衆国の歴史と重ね合わせながら多くの興味深い事実を指摘しています。『アメーzing・ストーリーズ』などのSF雑誌の記事やさまざまなSF映画とUFO神話との相互影響関係、冷戦やマッカーシズムやスプートニク・ショックとの関係、六十年代の政治的・社会的混乱との関係などにとどまらず、大統領選挙の年にUFOの目撃報告が増えるという興味深い相関関係も彼は指摘しています。彼の重要な結論の一つは、「目撃事件を引き起こしていたのは、輪郭がはっきりしないような、あやふやな危機感であった」ということ、そしてキューバ・ミサイル危機のような具体的な危機が目の前にある場合には、なぞの飛行物体には人々の目が向かないということです。」

（木原善彦著『UFOとポストモダン』（2006年2月10日発行）の「誤伝としての「円盤」の誕生」同書15ページ～16ページ）

ここでピーブルズの論として述べられてゐるのは、UFO出現は、あるひはUFOを主題にした表現は、幾分一般化すると、戦争に関し、戦争を巡って特にアメリカの大衆の覚える「輪郭がはっきりしないような、あやふやな危機感」が原因となつて、次のやうな領域との関係に於いて、起きる。

（1）SF文学とSF映画

（2）冷戦と共産主義者（共産党のスパイであり工作員である者）の摘発と処罰と追放の運動、俗称赤狩り

（3）宇宙船技術開発と惑星探査技術の競争にアメリカが敗北する場合か此れに相当するとアメリカ国家が判断する場合

（4）左翼または極左・共産主義者と共鳴者による世界的な革命といふ思想を巡る（革命を実現しようといふ学生たちの）騒擾であつた「六十年代の政治的・社会的混乱」と同類の混乱

（5）アメリカ大統領の選挙

そして、アメリカといふ国家に対して直接に「キューバ・ミサイル危機のような具体的な危機が目の前にある場合には、なぞの飛行物体には人々の目が向かない。」

III アメリカでは最近UFOが出現してゐる

次のNYTimesの記事の引用は、私が知る限りでは2回目のUFOの出現の記事で、ここ数ヶ月の間にネットの記事で知る限りの最初のUFO出現の記事を目にしたので、そろそろやはり出てきたかといふ感を抱いたのです。何故なら、米中冷戦、即ちアメリカをはじめとする民主主義・自由主義国家と中国共産党の一方独裁国家中華人民共和国の冷たい戦争が始まつたからです。

さうして、前章の最後のUFO目撃の場合の項目でいふと、今はまさしく、

(2) 冷戦と共産主義者（共産党のスパイであり工作員である者）の摘発と処罰と追放の運動、俗称赤狩り〔ローゼンバーグ夫妻の場合には死刑執行〔註1〕〕

(3) 宇宙船技術開発と惑星探査技術の競争にアメリカが敗北する場合か此れに相当するとアメリカ国家が判断する場合

(4) 左翼または極左・共産主義者と共鳴者による世界的な革命といふ思想を巡る（革命を実現しようといふ学生たちの）騒擾であつた「六十年代の政治的・社会的混乱」と同類の混乱

(5) アメリカ大統領の選挙

といふこれら4つの項目が現下のアメリカには該当してゐる。

〔註1〕

「当時は容共的な左翼メディアを中心に「冤罪である」としてアメリカ政府に対する批判に使われていたが、ヴェノナ文書でローゼンバーグ夫妻が実際にスパイ活動をおこなっていたことが明らかになった[1]。」（青山学院大学福井義高「ヴェノナと現代史再検討」：<http://www.gsim.aoyama.ac.jp/~fukui/VenonaSummary.pdf>）〔<https://ja.wikipedia.org/wiki/ローゼンバーグ事件>〕

NYTimesの記事を引用します。文中のリンクを踏んでUFOに関するYouTubeの映像をご覧になるのも一興。その静止画像を訳文の後に後掲します。

【拙訳】

ある動画が金曜日に「藝術と科学のスター・アカデミーの元に」〔註2〕といふ団体によつて発表されたが、これはアメリカ空軍の複数のパイロットが2015年にUFOに遭遇したことを示してゐるものと思はれる。

〔註2〕

Starsなので、文字通りに藝術の世界のスター（星）と宇宙の星である惑星（planets）を掛けてゐる。この団体のHPのURLです。：<https://dpo.tothestarsacademy.com>

【原文】

下線部のみを訳した：

「A video was released Friday by To the Stars Academy of Arts and Science that appears to show U.S. Navy pilots encountering an unidentified flying object in 2015.

“GO FAST is an authentic DoD video that captures the high-speed flight of an unidentified aircraft at low altitudes,” according to the TTSA, which was co-

founded by Tom DeLonge, former guitarist and co-lead vocalist of the popular band, Blink-182, Jim Semivan, former senior intelligence member of the CIA, and Dr. Hal Puthoff, a NASA and DoD adviser.

The video, titled “GO FAST,” comes just months after the New York Times (<https://www.nytimes.com/2017/12/16/us/politics/pentagon-program-ufo-harry-reid.html>) published two other declassified videos that show alleged encounters between U.S. Navy pilots and UFOs.

The Department of Defense declined to comment on the latest video (<https://coi.tothestarsacademy.com/2015-go-fast-footage>), but last December confirmed that the U.S. government ran a program for investigating reports of UFOs (<https://www.militarytimes.com/news/2017/12/16/are-ufos-real-a-secret-pentagon-program-sought-to-find-out/>) until 2012, according to ABC News (<http://abcnews.go.com/GMA/News/newly-released-dod-video-purportedly-shows-navy-pilots/story?id=53671546>).」



An unidentified flying object, as seen in a recently declassified Department of Defense video. (DoD screenshot)

IV アメリカ人のスーパーヒーローは何故皆空を飛ぶのか？

アメリカの文化の質物性については、『質物の国アメリカ』シリーズの論考にて論じ、証明した通りです〔註3〕。勿論、私が此のアメリカ文化の質物性を十分肯定的に論じてゐることは、安部公房の読者ならば、異論なく、ご存知の通り。何故なら、安部公房の大好きな数学topologyで書かれた安部公房の作品群は皆、何か即ち存在にそつくりの質物だから。

〔註3〕

「安部公房のアメリカ論」：

筆者の書いた安部公房をめぐるアメリカ論には次の5つがあります。この論考を入れると6つといふこと

になります：

1. 『安部公房のアメリカ論～贋物の国アメリカ～』（もぐら通信第22号）
2. 『安部公房のアメリカ論（2）～『アメリカ発見』を読み解く～』（もぐら通信第23号）
3. 『安部公房の読者のための村上春樹論（中）：Baseballとは何か？～Baseballは旧約聖書の創世記の贋物である～』（もぐら通信第50号）
4. 『安部公房のアメリカ論（3）～贋物の国アメリカ～ドーナツとは何か』（第80号）
5. 『鏡子の家』と映画『ティファニーで朝食を』（もぐら通信第100号）
6. 『安部公房のアメリカ論（4）～アメリカ人は冷戦が始まると何故いつもUFOを目撃するのか？』（もぐら通信第106号）

そして、哲学を欠いたアメリカといふ国で、それ故に哲学の下位に位置するプラグマティズムで考へる此の国で、結果として見かけ上「価値は等価で遍在する」といふ私たち日本人の縄文紀元以来1万5000年の歴史（を有する其）の超越論哲学が實際上生活の利便性（といふ意義に於いてはアメリカの文明的な側面）に於いて「いつでも、どこでも、誰にでも」といふアメリカに固有な価値の現れ方をするのだといふこともまた既論既述の通りです。

その例を挙げれば、あなたの身近にあるが如く、マクドナルド、ジーンズ、ダンキン・ドーナツ、セブン・イレブンなどのコンヴィニエンス・ストア通称コンビニ、クレジットカード、ヨーロッパ中世の贋物ディズニーランド、贋の現実たるインターネット等々。これらはみな「いつでも、どこでも、誰にでも」そこにある（英語でいふならavailableといふこと、利用しようと思へば直ぐ手を伸ばせば其処にいつでも求める人のためにあるといふ意味）。スーパーマンもまた、その一つです。スーパーマンも「いつでも、どこでも、誰にでも」、人を救い、アメリカといふ国家を救ふために登場する。かうしてみれば、スーパーマンのスーパーとは贋物のといふ意味であつたのです。贋物の人間、「人間そつくり」と云へば、これも読者のあなたには『使者』や『人間そつくり』といふ作品でお馴染みの存在、これがスーパーマンです。私たちは初期安部公房の幽霊といふ存在に始まり、『夢の逃亡』から死後に安部公房らしくワープロ中のフロッピー・ディスクに発見された遺作『飛ぶ男』に至るまでの安部公房の、（1）存在になることと（2）自己犠牲による死と（3）愛する者との永遠の別離と（4）その愛の証明としての象徴たる飛翔の世界を思へば十分でありませう。

さて、さうなれば、贋物の世界であるアメリカで、バットマン、スパイダーマン、アイアンマンその他アヴェンジャーズのスーパーヒーローもスーパーヒロインまでも、敵と戦ふためには愈々（いよいよ）空を飛ぶのである。これらはSF漫画とSF映画の主人公たちでありますから、UFO出現の条件の一つである上記（1）の「（1）SF文学とSF映画」に相当することになつて、UFO出現は、あるひはUFOを主題にした表現は、幾分一般化すると、戦争に関し、戦争を巡つて特にアメリカの大衆の覚える「輪郭がはっきりしない

ような、あやふやな危機感」が原因となつて、「(1) SF文学とSF映画」のと云はむや、むしろ「(1') SF漫画とSF映画」の領域との関係に於いて、起きてゐる。といふことになります。試しにこれらのスーパーヒーロの登場時期を調べて見ますと次のやうになります。

漫画として登場した最初の年：

- (1) スーパーマン：1938年
- (2) バットマン：1939年
- (3) スパイダーマン：1961年
- (4) アイアンマン：1963年
- (5) その他の（アイアンマン以外の）アヴェンジャーズ：
 - (5.1) キャプテン・アメリカ：1941年
 - (5.2) マイティ・ソー：1962年
 - (5.3) インクレダブル・ハルク：1962年

「マーベル・コミック」の『アベンジャーズ』の実写映画化作品の上映初年度 ([https://ja.wikipedia.org/wiki/アベンジャーズ_\(2012年の映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/アベンジャーズ_(2012年の映画)))：

- ・ 『アイアンマン』 (2008年)
- ・ 『インクレディブル・ハルク』 (2008年)
- ・ 『アイアンマン2』 (2010年)
- ・ 『マイティ・ソー』 (2011年)
- ・ 『キャプテン・アメリカ/ザ・ファースト・アベンジャー』 (2011年)

これらの漫画と映画での初登場年を西暦で集約すると、次のやうになる。この年表を作成してみても思ふのは、それらの年代の間に挟まれる (A) (B) (C)をみれば、アメリカと共産主義との戦ひは、1950年代から1972年代にかけては、宇宙開発競争に勝つことであつたといふこと、そしてSF映画としての空飛ぶスーパーヒーローの一連のSF映画の登場は (D)の9.11のテロの起きた7年後に始まり今に至るといふことです。そして、この7年の間に勢力を伸長させたのが中国共産党です。

(1) 1938、1939年

(X) 1939年～1945年：第二次世界大戦

(2) 1941年

(A) 1957年10月4日：世界初の人工衛星スプートニク1号をソヴィエト連邦が打ち上げる。

(B) 1961年4月12日：世界初の有人宇宙船ボストークをソヴィエト連邦が打ち上げる。

(C) アメリカのNASAによる月面探査アポロ有人宇宙飛行計画：1961年から197

2年まで

(3) 1962、1963、1964年

(D) 2001年9月11日のアル・カイダによるNY世界貿易センターへのテロ事件

(4) 2008年

(5) 2010、2011年

前期の『UFOとポストモダン』によれば「以上、見たように、UFO神話は九五年頃に終わりを迎え、以後はポストUFO神話と呼ぶべきいくつかの新種の神話が生まれていました。ポストUFO神話に見られる多様な他者は一言でいうなら、普段、人の目に触れない場所で厄介な悪さをする存在、「虫けら」のような存在です。」（同書182ページ～183ページ）とあり、この記述を正しいものとすれば、確かに、1995年代後半からのUFO神話は、「いくつかの新種の神話」としては、国際政治との、またアメリカ国内政治との、色々な種類の陰謀論に変形され、ネット・メディアのせいもあつて、大衆化されて世界中に個人の生活の中に、UFOおよびUFOに関連して発生する陰謀論とは知らずに結果として興味を持つSNSをはじめとするネット・ユーザーの間に拡散されてゐるし、また確かにアヴェンジャーズのスーパーヒーローたちの敵を攻撃し殺す仕方は十把一絡げの破壊と虐殺であつて、恰も敵が「虫けら」であるかの如くである。

そこに、2015年1月20日、アメリカ空軍のパイロットが前掲のUFOに遭遇して其の映像を撮影したというわけです。1995年頃に一度終はつて各種陰謀論に変形したポストUFO神話が一度終焉して、再度古典的・正統的なUFO神話が復活した。それが2015年初月。この前後から、アメリカは中国共産党とマルクス主義に基づく其の共産主義を敵だと考へ始めたことを意味してゐる。ドナルド・トランプ大統領の就任は2017年1月20日。前年2016年暮れには次期大統領に当選してゐたことから、この前年度には既にアメリカの（日本人の大好きな用語を此処で用ひれば）空気は変はつてゐたといふことです。

その自国の政治の転換点を認めたくない、即ち多分～多分ですが一上の年表から云つて「ポストUFO神話」に浸りたい、1995年頃からはもはやアメリカを脅かすUFOなど存在しないし、敵対的な国際政治の勢力もなく、従ひ出現しないと根拠なく盲信してゐた既存の20世紀型のマス・メディアも、2015年のUFO出現で、間違いなく其の大衆的な、もつと正確に云へば大衆扇情的なマス・メディアの性格から云つて、無意識のうちにでも論調を変へることでせう。さうでなければ、既存マス・メディアは自分たちは共産主義者だといふことの自己証明を大衆と彼らのみる国民と其の国家に対してすることになる。2009年1月20日から2017年1月20日はオバマ大統領の時代、それ以前の丁度1995年1月17日から2000年12月21日まではブッシュJR.の時代です。国際政治の専門家からこの時代を振り返へつて眺めれば、UFO出現史とハリウッドSF映画史に、アメリカの内外の政治史も重なつてゐる筈です。かく思へば、以前「『鏡子の家』と映画『ティファニーで朝食を』」（もぐら通信第100号）にて私の

呈した疑問、即ち、

「今回ティファニーの上掲の場面をみてよくわかったことは、映画館といふ倉庫のことです。私の年来の疑問は、何故映画は映画館に行つて見なければいけないのだらうといふことでした。映画好きの人たちに機会ある毎に尋ねても、映画は映画館で見なければ駄目だといふのに、その理由と動機を言葉で説明することができないのです。

(略)

しかし、今回のティファニーの店内の全景でよくわかったやうに、映画館も倉庫だ。といふことは、あそこで上映される映画は、ティファニーに分類され陳列されてゐる宝石と同様に、アメリカ人にとっては何か非常に高価な貴重なものなのだといふことです。

(略) 同じ理由で、『ティファニーで朝食を』といふ映画のあの画面に映写されるものは、当時アメリカ人が世界中から金にあかせて収集して分類されて陳列されてゐた宝石なのでせう。だから、ハリウッドの地位と其の価値は、お金を産むからといふこと以外にも、この、映画といふ産物がティファニーの倉庫と同じであり、映画館はティファニーの倉庫、それも大衆化したティファニーの倉庫だといふ理由で、高いのだと思ふ。ロサンゼルスのある山の崖に掛かつてゐるHOLLY WOODの看板標識が掛けられたのは、アメリカが世界に威を示し始めた20世紀初頭の1923年です。」

(「『鏡子の家』と映画『ティファニーで朝食を』」(もぐら通信第100号))

確かに、ハリウッドの製作するSF映画は、アニメーションも含めて、大衆のための、大衆の求める、大衆によるメディアであり、その他のメディア即ち新聞紙や雑誌やTV地上波とは異なる「ティファニーの倉庫、それも大衆化したティファニーの倉庫」であつて、誰でも切符を買つて其の巨きな空間の中に割り当てられた指定席につけば、「戦争に関し、戦争を巡つて特にアメリカの大衆の覚える「輪郭がはっきりしないような、あやふやな危機感」を鎮めることができるのである。

これは、そのやうな場合に静寂と沈黙を求める私たちとは正反対の生活であり、正反対のアメリカ人の姿です。これはヨーロッパ人の姿でもありません。1875年に生まれたドイツの文豪トーマス・マンは、その良く社会事象を分類して整理して自分との関係を述べた或るエッセイの中で、当時台頭して来た映画は自分の神経を刺激して、映画を観た後は一週間仕事が手に付かないと述べてゐます。このエッセイの論旨は、さうは文字で書いてはいませんが、マンはアメリカ文化に対して批判的です。それはヨーロッパのドイツ人ですから当たり前です。これがフランスでもアメリカに対しては同じです。勿論マンにとって大切な時間は子供達が「神聖な午前」と呼んだ朝の静かな執筆時間なのです。これは別にドイツ人の作家の例ばかりではない。

「ロサンゼルスのある山の崖に掛かつてゐるHOLLY WOODの看板標識が掛けられたのは、アメリカが世界に威を示し始めた20世紀初頭の1923年」には、空飛ぶスーパーヒーローはまだ登場してゐない。何故なら、このときアメリカの資本主義経済は大

進展し、活況を呈してゐましたから。「そしてキューバ・ミサイル危機のような具体的な危機が目にある場合」は出来してゐない。スーパーマンがアメリカの危機を救ふために登場するのは1929年の大恐慌の後の、1938年、即ち「(X) 1939年～1945年：第二次世界大戦」の前年です。

VI 第一次冷戦開始直後と第二次冷戦開始直後の目撃者は空を飛んでみた
各場合の目撃者は空を飛ぶアメリカ人である。

1. 第一次冷戦開始直後の目撃者

「「空とぶ円盤」神話が生まれた年、妻と二人の娘がいる実業家ケネス・アーノルドは三二歳の夏を迎えた。彼はグレート・ウェスタン消防器具供給会社を経営しており、自ら軽飛行機も操縦していた。ケネス・アーノルドは、いわゆる「信頼できる目撃者」と言えた。

一九四七年六月二十四日火曜日の午後、ケネス・アーノルドは、高度九二〇〇フィートで、レイニア山へ向って飛行していた。大気は清らかで、澄んでいた。アーノルドは、飛行機の操縦を楽しんでいた。

二、三分飛んだ後に、アーノルドは明るく輝く閃光に気がついた。彼は、「高度約九五〇〇フィートで北から南に向け、さらに正確に言えば、方位角約一七〇度方向へと飛行していく、航空機のように見える奇妙な九つの連なり」を、左方にそびえるレイニア山の北方に発見した。

(略)

ワシントン州ヤキマに着くまで、この目撃はアーノルドを悩ませた。その日の午後、オレゴン州ベンドルトンに到着した後で、アーノルドは、二つの山頂の間の距離を計って観た。その結果、山頂は四七マイル離れており、物体の速さは、音速の二倍を超える、時速一七〇〇マイルもあったということに気がついた。当時は、音速を超える航空機などまだ存在しなかったのである。」

(『人類はなぜUFOと遭遇するのか』25ページ～26ページ)

また同書によれば、アーノルドがUFOを見た翌年「トーマス・F・マンテル・ジュニア大尉は、ケンタッキー州空軍第一六五戦闘飛行中隊のパイロットであった」が、同年「一月七日、ジョージア州マリエッタからケンタッキー州のスタンディフォード空軍基地まで、低高度での飛行訓練を行う予定」で他の3機と一緒に飛行中「午後二時四五分ごろ、十二時の方向に物体を発見した。」それはマンテル大尉の無線による報告によれば「本機のおよそ半分の速度で移動中」で、「管制塔が物体の様子を求めると、マンテル大尉は「金属製のように見える。まるで金属でできているかのように太陽の光を反射している。それは、とてつもなくでかい」と答えてきた。さらに、こう付け足した。「依然上昇中、物体は本機前方に位置し、本機と同速か、それを上回る速度で移動している。良く観察するため、さらに接近をする」。しかし「高度二万五〇〇〇フィートに達

した時点で、マンテル大尉は酸素欠乏を起こし、気を失っていたのだ。F-51機はそれでもさらに上昇し続け、三万フィートにまで達し、そこで水平飛行に移った。エンジンのトルクの影響で、飛行機の機体はゆるやかに左に旋回を始めた。やがてその旋回が速まっていき、螺旋のきりもみ状態へと変わっていった。マンテル機は、高度二万フィートと一万フィートの間で、粉々に砕け散った。」

(同書「第3章 UFO三大「古典」事件」41ページ～42ページ)

マンテル大尉の事件は、UFO三大古典事件の最初の事件である。

2. 第二次冷戦直後の目撃者

アメリカのペンス副大統領が対中国共産党に対して2018年10月4日に米国の保守系シンクタンクのハドソン研究所で行った演説をした時〔註4〕以来、第二次冷戦が始まりました。YouTubeの動画でその演説を聴いて私は驚きました。これはアメリカによる、実に決然たる、ソヴィエト連邦に対するのと同じ今度は中国共産党に対する反共撲滅宣言でした。日本の政治家にこのような条理を尽くした言葉を、原稿を読むことなく発声できる（スピーチできる）人間がゐるか、これ位の政治家として持つべき言語能力を有する政治家が日本にも欲しいと、率直に思いました。また、これならば、トランプが暗殺か何かで死んでも、この副大統領がゐればアメリカは大丈夫だとも思いました。

〔註4〕

ペンス副大統領の痛烈な中国批判：

「同氏は、極めて激しい口調で中国政府批判を展開したが、その範囲は、政治、経済、安全保障、人権など広範囲に及んでいる。」 (<http://fis.nri.co.jp/ja-JP/knowledge/commentary/2018/20181022.html>)

本題に戻ります。

VII ライト兄弟は何故飛行機を発明したのか？

何故ライト兄弟は飛行機を発明したいと思つたのでせうか。もつと率直に言つて、何故この兄弟は空を本当に飛びたいと思つたのでせうか。

その動機が、実は私たち日本人とは全く異なるのだ。といふのが、この章であなたに話したいことなのです。これまで「安部公房のアメリカ論」の一連の論考の中で、その中でも特に『安部公房の読者のための村上春樹論（中）：Baseballとは何か？～Baseballは旧約聖書の創世記の贗物である～』（もぐら通信第50号）に於いて、アメリカ人がBase Ballと名付け、明治時代の正岡子規が野球と和訳したゲームは、実は旧約聖書の天地創造の神話を下敷きにした7日間と、知恵の林檎を食べることが性愛を知ることであり自分が裸体であることを恥じることを知つたアダムとイヴが唯一絶対神によつて樂園を追放された其の物語の再生だ（文学的には言葉の厳密な意義に於いてParodieといふべきだ）といふことを述べました。それ故に、天地創造の最後の回の7回目になると観客

席の人々は全員立つて「私を球場に連れてつて」といふ乙女が主人公の歌を歌ふ、乙女が9人の野球選手といふ一人一人が絶対神に遣はされた神聖なる使者である選手に対する思ひのたけを歌ふのだといふ説明もしました。即ち、このBase Ball Stadiumといふ野球場は、私たちが気楽に考へてゐるやうな場所ではなく、アメリカ人にとっては神聖なる、旧約聖書の神話を踏まへたノアの方舟であるのです。

アメリカの文化を、太平洋を挟んで此処にゐる日本列島といふ島国から眺めると、アメリカ人の文化には次の4つの特徴がある。

- (1) ヨーロッパ中世に対する強烈な憧れ（ディズニーランドその他をみよ）
- (2) お金に対する強烈な飢餓感
- (3) 家族または疑似家族に対する、これも強烈な飢餓感（この問題は「クッキーとは何か？」と題して同じアメリカ贗物論の元に稿を改めます。）
- (4) 旧約聖書に対する思念といふべき強烈な思ひ（これがアメリカ人がユダヤ人を、ヨーロッパ主要諸国と異なつて大切に理由の一つです。）

ライト兄弟の履歴を調べると父親は牧師であつた。二人も他の子供たちもまた、旧約聖書の故事を良く知つてゐたに違ひない。多分生活の中に、何か厳格な規則の遵守から来る相当のプロテスタントの生活の雰囲気があつたに違ひない。

ライト兄弟は、実は天使になりたいと思つたのではないのだろうか？

これが私の結論であり、仮説である。即ち、アメリカ人は空を飛びたいといふ気持ちの根底にあるのは、旧約聖書にある天使のやうに、しかも唯一絶対神の遣ひとして、空を飛びたいといふ人知れず自分自身にも知られぬ思いなのではないだろうか。

私は二年に一回の割合で、鳥になつて空を飛びたいと思ふが、まさか天使になりたいとは思はないのは、私が日本人だからである。調べると江戸時代に浮田幸吉といふ若者がゐて、やはり空を鳥のやうに飛びたいと思つて人工の翼を発明して江戸は京橋の欄干から飛んで見せたさうです〔註5〕。やはり、万葉集の古代にも、山上憶良の歌があつて、

世の中を憂しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば

といふ歌を遺してゐる。

〔註5〕

<https://ja.wikipedia.org/wiki/浮田幸吉>

私たちは鳥になりたいと思ふが、アメリカ人は天使になりたいと思つて空を飛ぶのである。

このやうに考へて来ると、おそらくはアメリカ軍の空軍のパイロットといふ職業は相当に社会的に地位の高い職業ではないかと私は思ふ。それはまさしく、唯一絶対神の代はりにアメリカといふ国家に遣はされてアメリカといふ国家を守護する天使である。アメリカ人の生み出すスーパーヒーローにはこの思ひがあるのではないだらうか。そして、これらの天使は国家と国民の危機の時に現れる。そして、それがUFOの出現と軌を一にしてゐる。そして、その天使が旧約聖書の天使であるならば、必ずや終末思想と結びついてゐる。といふことは即ち、選民思想とも結びついてゐる。といふ、見かけ上は贗のユダヤ民族に良く似て来るのです。即ちアメリカ人は贗ユダヤ人であるといふことです。

一体どうやつてこのUFO、即ちUnidentified Flying Objectといふ命名、和訳で未確認飛行物体といふ命名の由来の説明をしようかと思ひつつ、この一文を書き下ろして、此処まで来たのですから、此処でこの名前の由来の、以上の文脈（context：コンテキスト）での、説明をします。

彷徨へるユダヤ人といふ云ひ方が、国を持たぬユダヤ人について云はれますが、これを英語にすれば、Flying Jewsといふことになる。同じ例で、さまよえるオランダ人といふのがありますが、これはドイツ語でDer fliegende Holländer、英語でThe flying Dutchman。調べると後者はワーグナーのオペラの名前で、英語で考へれば呪いによって永久に洋上をさまよう運命を与えられた幽霊船の意味と其の儘なるのださうで、それではドイツ語の原語でさうなるかと云へばさうはならない。やはりオランダ人はオランダ人で、といふ事は、其の幽霊船に乗船してゐる彷徨へるオランダ人たちといふ意味である。

UFO、即ちUnidentified Flying Objectといふ命名に、確かに空を飛んでゐるとは云へ、そして命名の順序は其の事実が最初でありませうが、後でこのやうに其の命名から来たるアメリカ人の心理を読み解くとなると、かやうな解釈が可能だといふ事なのです。即ち、アメリカ人の危機に目撃する物体は、得体の知れない（unidentified：何かの帳簿にある記録と一致しない未登録の）彷徨へる空飛ぶ物体である。物体といふ英語はobjectですから、一番上位の科学である哲学の用語の和訳を使へば客体、客観といふ事です。それではこれを観る主体、主観といふものがあるでせう。空飛ぶ空軍のパイロットは、ヨーロッパの哲学で云へば、主観（subject）である。そしてUFOは客観（object）である。由来、起源の特定できない、アメリカ人の持つ過去のデータのどれとも一致しない、彷徨へる客観がUFOなのです。

しかし其の客観をみるスーパーヒーローが、それも漫画のヒーローが、実はヨーロッパのカソリックの天使の贗物であるとは、誠にアメリカらしいではありませんか。しかし、私はUFOが天使だといふのではない。それならば、UFOとは一体何か。話はもう少し複雑になりますが、その前に、それでは此のやうに考へて来れば、次の章に言及する事件が、どれほどアメリカといふ国家とアメリカ人にとつて物理的にのみならず、深層心理においても、衝撃的な事件であつたかが理解されるでせう。

VIII スプートニクス号の打ち上げ成功と9.11の衝撃

この衝撃とは一体何かといふ問ひに答へるためには「IV アメリカ人のスーパーヒーローは何故皆空を飛ぶのか？」で述べた「アメリカと共産主義との戦ひは、1950年代から1972年代にかけては、宇宙開発競争に勝つことであつたといふこと」といふ一句に戻らなければなりません。

この1970年代の宇宙競争に優勢な地位を占めたあとの後半に私が当時ソ連の優等生とマス・メディアに書かれてゐた東ドイツ、正式国名ドイツ民主共和国に足掛け4年居住した其の経験に、ここで言及しなければならないのです。

この共産党の絶対専制支配する共産主義国に足を踏み入れて生活を始めて直ぐに思つた事は、一体こんなに貧しい国が何故ソ連の優等生なのか、これが優等生ならば他の東欧共産主義諸国はもつと酷い状態で、一言で云へば貧乏に違ひないと思つたのです。それでは親であるソヴィエト連邦は豊かなのか。といふ問ひを立てましたが、伝聞情報では少しも豊かではないのです。これが私の解けない謎でした。どう考へても、こんな人心の死への恐怖心（要するに最後はお前を殺すぞといふ恐怖心）を下敷きにしてある国家が保つわけがない。しかし密告（スパイ）と盗聴と尾行と（理由の全く不明の突然の）処罰といふものが日常にあると、ああ、これだけ徹底的にやれば、あと20年は東ドイツは崩壊しないだらうと当時思つたのでした。1976年の赴任ですから、1996年に東ドイツは崩壊するといふ私の見立ててでした。実際には1989年にベルリンの壁が崩壊したので、7年早く共産党国家は崩壊したわけで、その誤算は東ドイツ国民のためにはとても結構な事でした。

何故こんな貧しい国が成り立つてゐたのか、どうやつて仕事の生産性を上げ、GDPを上げ、経済的に豊かになるのか？といふ資本主義の論理的な問ひは共産主義には適用の仕様がなないのです。何故なら、相場（市場）、マーケットといふ通貨と株式の売買の場所を否定して成り立つてゐる、共産党が国家の上にあるといふ共産主義の国家だからです。その結果、共産主義国家には、本当にこれを国民のための国家と呼べるかどうかは甚だ疑はしいが、それでも敢へて国家と呼べば、三つの欠陥がありました〔註6〕。これは私の観察による「西方共産主義国家見聞録」に依る結論の一つです。

[註6]

「附録4 共産主義の致命的欠陥

「共産主義（マルクス主義）の特徴は、その経済体制のしからしむところ（売買行為＝相場＝

の否定）が原因で、そのなすことは、私の東ドイツ滞在見聞記（マルコポーロの向かふを張っ

て、以後「西方共産主義見聞録」と呼びたい）の書き溜めたメモの一部を此处で引用するとすれば、売買行為（相場）の否定といふことから、共産主義とは、共産党による、

（1）外国の諸物の窃盗と「共産党と党に関係する者は皆運転手も含めスパイである」（2）闇市場の追認と「従ひ、共産党は此の市場を管理（コントロール）できない」（3）それまでの先人の蓄財した遺産（文化的精神遺産も含む）の切り売りの「歴史の捏造もこれに含まれる」

これら三つしかないのだ。」

（『Mole Hole Letter（19）朝日新聞の労組副委員長（36歳）の自殺は何を意味するか』もぐら通信第103号）

（1）は二つの階層で地球天下周知の通り。（3）には歴史の捏造のほかに、あれこれの無償化（教育の無償化その他）が含まれる。無制限（クルクルパー）の無償化と一緒に全体主義ファシズムがやつて来る。そして、といふわけで、（3）は（1）と（2）に繋がる。タダほど高いも

のではない。無償であるといふことは、国家権力の、あなたの私生活への無断の侵入に同意するといふことなのです。あなたが、或る日仕事から帰宅すると、ヴェランダから共産党支配の国旗が垂れ下がつてゐる。あなたにプライバシーや人権などは全く、ない。権利がないが共産党の絶対命令による義務だけはある。これがマルクス主義の実現した共産主義社会です。そして、これは私が東ドイツで経験した実際の経験です。（1）は国内の「人民」からの収奪を含むので、「国内外の諸物の窃盗」といふ方が良いかもしれない。さうすると益々（1）は（3）に近づき、（2）の闇市場の放任を許さざるを得ない。これが果たして国家であらうか？これに人間が個人の名前で耐えることのできる限界が70年である。しかし、70年といふ年月は、その個人の人生の時間のほとんど全てだ。

私の年来の観察によれば、これらすべてのことは、ただただ相場の否定といふ、時代地域を問はぬ人間の経済行為の要にあるものの否定によつて起きるのである。相場をマーケットなどと読み替へて、あなたの頭の中で翻訳すると、あなたの日本人としての理解が鈍ります。ここは相場といふ日本語の語感のままに素直に理解して貰ひたい。日本語はそれ位に大切です。さうであれば、どの国どの民族の言葉も自国民その民族にとって致命的に大切である。それを弁へた上で相場を marketと呼ぶのであれば、話はまた別のことになります。」

（『Mole Hole Letter（21）二階層戦争論-時代と世界のための処方箋-』の「附録4 共産主義の致命的欠陥」（もぐら通信第104号））

一体誰があんな貧しい共産主義国家に何の目的で金を出してみたのか？といふ問いに21世紀の今やつと答へを得ることができるのは誠にありがたい事です。ここでは論題を

外れますから結論だけを申し上げれば、アメリカのNYのウォール街といふ、歴史的にはオランダ人の築いた壁（ウォール）の中の区域に商売をする国際金融資本家たちの仕業であつた。しかし、これは何もおかしいことではない。私たち日本人は敵に塩を送ることまでするが（武田信玄と上杉謙信の戦ひをみよ）、彼奴等（キャツラである）欧米白人種は敵にも味方にも武器を売つて、大事な事は金を儲けることなのだ。17世紀に英蘭の戦争をしてゐても、オランダの商人は自国を裏切つて英国に武器を販売した。欧米白人種キリスト教徒とユダヤ人はみなこれを経済と政治の世界でやつて来たし、これからもやると云ふ前提で物事を考へる事が、私たちにとつては、感情が納得しなくとも、論理に徹すれば正解に至る正しい道筋であるのです〔註7〕。

〔註7〕

日米戦争の真実、即ちアメリカ合衆国によるマジシャンズ・セレクトについては以下の実証的な書物がある：

- （1）『裏切られた自由 上：フーバー大統領が語る第二次世界大戦の隠された歴史とその後遺症』（フーバー回顧録）
- （2）『マッカーサー大戦回顧録』
- （3）『日米戦争を起こしたのは誰か ルーズベルトの罪状・フーバー大統領回顧録を論ず』（江崎道朗著）
- （4）『日米戦争を策謀したのは誰だ！ ロックフェラー、ルーズベルト、近衛文麿 そしてフーバーは――』（林千勝著）
- （5）『アメリカの社会主義者が日米戦争を仕組んだ「日米近現代史」から戦争と革命の20世紀を総括する』（馬淵睦夫著）
- （6）『ロックフェラー対ロスチャイルド』（藤井昇著）
- （7）『日米戦争を起こしたのは誰か ルーズベルトの罪状・フーバー大統領回顧録を論ず』（藤井厳喜、稲村公望、茂木弘通共著）
- （8）『米中新冷戦の正体 - 脱中国で日本再生』（馬淵睦夫、河添恵子共著）
- （9）『あるユダヤ人の懺悔 日本人に謝りたい』（モルデカイ・モーゼ共著/久保田政男訳）

このやうに考へて来ますと、共産党と共産主義国家といふのは、実は建国の由来からして其れまでの歴史を断ち切り、おまけに親の国（血縁の家族がゐるといふ意味でもさう）であるヨーロッパと絶縁し、これを独立宣言といふ宣言を内外に布告してそれで建国が成り立つのだといふ論理で建国したアメリカが其の建国の在り方からして共産主義国家であるといふことの現実的な実際の自分のもう一対の、鏡に写した姿、これが共産党であり共産主義国家であるのです。

これが何故、今時の対中国共産党に有利な外交を展開し、ウォール街の国際金融資本が資金を提供して日本の国をアジアの一角（極東）に封じ籠めようと先の戦争後に此の70年、トランプが大統領に就任するまでのアメリカのやり方の理由であつたのです。

今細かな論証は省きますが、私の結論だけを此のUFOの論考の文脈で述べれば、アメリカといふ国家はmagician's selectの国なのです。即ち、仕組まれた/仕組んだ贗の現実を相手に見せて、それが恰も自分が選択した自由に依る結果だと錯覚させることに長けた国なのです。よくある手品で、カードをシャッフルさせて其のシャッフルした当人の選

んだカードの紋様を当てたりする小さな文字通りの小手先の手品といふべき魔術から、大きな仕掛けの倉庫のやうな空間を利用して現実に見えてゐた筈の自由の女神像を消してしまふ大仕掛けの魔術まで、自分の自由で其の現実を恰も選択して其処にゐると思はせて置いて、実は其の裏ではもう一つの仕組みと仕掛けと仕込みがあるといふ magician's select、魔術にかけられた側の客人が、実は魔術師の選択的な誘導によつて謀られるといふこと、これがマジシャンズ・セレクトなのです。

その典型例の一つが、日本帝国海軍による真珠湾攻撃であり、自作自演のヴェトナム戦争発端のトンキン湾事件であり、アフリカや中近東での戦争や其のほかの地域での紛争や事変の契機となつた一見偶発的な歴史上の事件である。この場合常に民主主義と自由がイデオロギーになつてゐる事がアメリカといふ国家の問題である。マジシャンズ・セレクト。極端な場合には自作自演にまでなるといふマジシャンズ・セレクト。

私も実際にアメリカで、ある宴席で余興に魔術師が登場し、席を廻つて歩いて、間違ひなく一番騙しやすい人間を人種を超えて其の服装も含めて特徴をよく分類して捉へてゐるのでせう、私がカモに選ばれて、言葉と仕草で私の注意を逸らしてゐるうちに（勿論私は気づかない）此のマジシャンズ・セレクトにやられた事があります。英語で red hering といふ言葉がありますが、鰯の赤い鰭を囿にして、本筋の仕事を成し遂げるといふ遣り方も同じですが、私がここで云ひたいのは、アメリカ人はこれが生活の、仕事と遊びの隅々まで染み渡つてゐて、無意識に其の世界に住み、意識して物を考へて、さて何かをしよう、さうだお金を儲けようと思ふと自然に（自然にですー私たちの自然とは全然違ふ）さうするといふ事なのです。

だからアメリカ人は年がら年中ラスベガスでマジック・ショーを演つてゐる。アメリカ人はパーティーが非常に好きだ。あの雰囲気は私には少し異常に思はれる。あの受付の女性たち男性たちの笑顔は、今かうして書いてゐても、なんだかマクドナルドの店員の笑顔に似てゐる。あの笑顔は作り笑ひなのか、本当に楽しんでゐるのか。私にはよく判別できないのである。本物と云へば本物、贋物と云へば贋物である。さう、何事にも show の要素を入れて楽しくするのが好きだ。Show up するのが好きなのは、一見実直なビジネスの場のプレゼンテーションにあつても然り。日本の大手企業の社員のプレゼンを、アメリカ人の簡潔なスクリーンの、show（見せる）する言葉とプレゼンの後では、見劣りがして、困つたものだと思つた事がある。私たちに此の感覚（センス）はありません。日本で真似てパーティーを開いても、それはアメリカ人のパーティーではない。

この show up する、この本物に対する贋物性の創出を楽しみ娯楽（entertainment）とすること、お客を楽しませる（entertain）すること、これが「いつでも、どこでも、誰にでも」アメリカ人が心を尽くす礼儀作法の一つなのだ。と、私はさう考へるが、あなたは如何思はれるか。さう思へば、街角のコンビニも、スーパーマーケットも、eBay も、通販も、クレジットカードも、何もかもエンターテインメントである。

商業の世界でも私の経験では、ネット上のアメリカの英語圏に行き、ある商品を購入する。この商品は物ではなく、アプリとクラウドを使つたサービスであつて、この会員になる資格（永久会員権）を安い価格（2500円）で、アプリ（2500円）計5000円で購入しました。しかし勿論、此の彼らのマーケティングといふ、心理学を応用した贗の科学については研究を始めた15年前から変はらずよく知つてゐるのですが、いつも同じ手口でやられる。といふよりも、アメリカ人から商品を購入するといつもこれ以外の手口でしか意思疎通ができないのです。それがマジシャンズ・セレクトといふ手口なのです。

彼らは最初に潜在顧客（potentialsと云つてゐる）に買わせる格安の商品をフロント・エンドと呼んでゐる。会員になつた後に、最初に購入したサービスを持つと十全に使ひこなすためのサービスの購入をしなければならないといふことを其のクラウドサービスのイントラネットといふべき閉ぢたサークルに入つてから知るわけですが、アメリカ人の実に上手いのはこれが詐欺だといふ事にはならない程度に其のselectionを楽しく顧客に強ひるといふところにあるのです。ここから先の成り行きを彼らはsales funnelと呼んでゐます。Funnelとは漏斗のことです。一度買つたら、其のあとは買わずにはゐられないやうな、逆円錐形の蟻地獄の斜面を滑り落ちて行くのです。それも買い手は納得しながら斜面を滑り落ちて行き、最後にバック・エンドの高い商品一万円から10万円を超える価格の商品を買ふ事になる。彼らは、此の「買わざるを得ないと思ひこませる事」を英語でmotivate（動詞）、その過程と結果をmotivationと呼んでゐます。和訳の動機やら動機付けでは意味が通らない。motivateを過去分詞にして受け身にして文を作れば、その主語たる買い手は「どうしても買はずにゐられなくなつてゐる」といふ意味である。He is motivated. かうなればsales funnelの斜面を滑り落ちて漏斗の穴に落ちて行く。といふ訳です。そのあなたが落ちてゆく漏斗の図が次の図です。一番簡素な、説明抜きの漏斗を選びました。この背後には心理学に基づいた科学的な、しかし実際には擬似科学（贗科学）であるマーケティングといふプラグマティズムの商業理論があるので



←アメリカ製「楽しい蟻地獄」。日米安保条約も然り、TPPも構造協議も然り。政治と経済の専門家たちよ楽しい交渉をやつておくれ。日本人には日本人の「手妻」があるだらう？日本人の美意識に基づいた日本製「もののあはれ蟻地獄」が。

間違ひなく、アメリカとの政治的な交渉でも、この経済の交渉にも同じ此のmagician's selectの手口をつかふ筈です。私が社会に出た直ぐに、優れた年配者の言葉に、アメリカ人は一度合意した後でも其の次の手を用意して出して来るので用心すべきだといふ言葉を聞いてずっと記憶に留めてゐて今日に到りますが、実際にネットの商売でも然り、日

本の善意溢れる政治家が相手の国に塩を送るやうなことを考えると、ケツの毛まで抜かれるでせう。ここは現場の話として下品に云はねば伝はらない。幸い、私はフロント・エンドで初期の研究目的は達したので、バック・エンドをまだ買つてゐませんが、15年前と様変はりであるのは、ソフトウェアの開発能力を利用した商売といふこととてインド人のマーケットが実に増えてゐるといふことです。インド人もまた生来日常の交渉に於いてもトリッキーなことを（私の経験上）するものですが、しかし、そのインド人もアメリカ人にかくも学ぶ事が多かつたのでありませう。更にしかし、ここで私の問ひたいのは、次の問ひである。

日本人は此の70有余年大日本帝国を戦争で負かしたアメリカ人とアメリカといふ国から一体何を学んだのでせうか？

この問ひに、左翼・右翼、極左・極右の自由主義者・共産主義者、そして民主主義者に保守主義者の先輩諸氏に答へてもらひたい。日本人は、とは、あなたは、といふ意味である。

先輩諸氏の問：それでは、そんなことをいふお前は一体なにをアメリカから学んだのだ？まづ其の答へをお前から言つてみろ。

私の答：mobility、是也。この概念、この言葉、人生観そのものである言葉、この概念。ノマドであつてあなたがモバイル（mobile）を携帯する生活を表現する一語は日本語にはない。私の世に出る前に真剣に自問自答して探した「私にとって人生の最高の価値は何か？」といふ問ひに対する答へが即座にこれであつた。日本語には此の概念に相当する言葉がなかつたので、日本語はやつて来なかつた。一処不住といふ言葉も其の時思ひ浮かんだが、これは仏教用語で余りにも抹香臭かつたので直ちに棄却。後になつて思へば今に至るのであるが、安部公房の云ふニュートラル（neutral）な意味の言葉が欲しかつたのである。Mobilityはニュートラルである。最近知つたロック・ギタリストの奏でる最初の基本のニュートラルのコードの名前を云ふならば、SUS4である。其のコードから雅楽の越天楽にも展開できればバッハのフーガにも展開ができる。と言ふムッシュかまやつ事かまやつひろしといふミュージシャンは素晴らしいミュージシャンでした。かく、mobilityを一言で言ひ換へるやまと言葉はない。と思ふが、如何か。当時探してもみつからなかつた。Mobility、これは私の人生観である。同じ人生観を私はアメリカ映画やTV映画に観るのである。映画はアメリカ人の汎神論的なバロック様式のジャンル横断の世界であつて西部劇であるか、SFであるか、ビジネスものであるか、恋愛ものであるか、サスペンスかホラーかを問はない。なんでもありの世界である。Mobilityとは言葉を変へれば「いつでも、どこでも、誰にでも」である。アメリカの映画やTV番組を観てみると、この言葉は自由と裏腹にある言葉です。

携帯電話とスマートフォンをあなたは持つた。しかし自由とは、今の、現代の日本人に最も縁の遠い言葉だ。思考する事から行為に至るまで。今の日本人は「いつ、どこ其処に、誰に/と」と云ふのであり、これが日本人の世の中であり、資本主義と民主主義の世の中ならば福沢諭吉の訳した社会の、さう、アメリカの社会といふ言葉の意味とは正反対の価値観なのではないか？かうしてまた余計なことを思ひだすのであるが、social engineeringとは、要するに相手の/相手を介した誰かについての情報収拾、即ち軽重を問はずスパイ活動のこと

である。あの娯楽精神豊かな、mobilityを人生最高の価値として生きる孤独なしかし自由な人間たちの集まる空騒ぎのパーティーにも自由の隙間に自国他国のスパイが忍び込むのである。そのアメリカが今中国共産党と戦ひ始めた。そして、UFOが出現する。

この章の最後に、アメリカの文化の特徴である「いつでも、どこでも、誰にでも」とマジシャンズ・セレクトの関係を述べて置きたいと思つたが、図らずも上述までのところで説明に至つたので、その記述で此の関係をご理解戴きたい。まだ言葉にならず論じたりない思ひもなくはないので、更なる論述は別の「アメリカ贗物論」を書く機会に譲ります。

この章の見出しである「スプートニクス号の打ち上げ成功と9.11の衝撃」について最後に述べたい。自分の合はせ鏡に映る共産主義国家ソ連に飛行機よりもより高度な空を飛ぶことを先取りされた事実と、同じ一神教とは云へアメリカが富の収奪をして来たアラブのイスラム教のテロリストによるNYの中心に立つ国際金融資本主義の象徴的な建物に対する飛行機といふ空を飛ぶ、アメリカ人の憧れであり元々アメリカ人の発明になる、しかし天使ではなく異教徒の悪魔としての其の墜落と墜衝による建物破壊事件は、このやうにアメリカ大衆の深層心理に衝撃を与へたものと私は考へてゐます。

さて、そこで私の問ふべきいつもの問いは次の問いである。

IX UFOは一体何の贗物であらうか？

問1：UFOは一体何の贗物であらうか？

答1：それは、唯一絶対神の否定的な姿をした贗物である。何故ならば、UFOの目撃は「戦争に関し、戦争を巡つて特にアメリカの大衆の覚える「輪郭がはっきりしないような、あやふやな危機感」が原因となつて」、旧約聖書が無意識にでも深層心理に眠つてゐるアメリカ人であれば、そのやうな精神的な不安を救済するといふ解決をもたらすと同時に、しかしまた不安を生む謀略論をまた生む存在でもあるからだ。

問2：一体何故、そんな否定的なGodの贗物が、安部公房流に云へば陰画のGodが出現するのであらうか？

答2：それは、アメリカといふ国とアメリカ人は、私たち日本人とは異なり、私達が縄文紀元以来日本語といふtopology言語の持つ、従ひ（これも安部公房流に云へば）私たちの遺伝子に内蔵されてゐる超越論の二項対立否定論理を持たないからである。それ故に、共産党と共産主義といふ自己の姿を映した鏡の中の姿に苦しみ不安に思ふが、その原因が不明であつて（unidentified）、得体の知れない（unidentified）不安に襲はれるからです。自分自身が二項対立の隙間で彷徨つて（flyingして）ゐる、そのやうな客体（object）であり、客観（object）である。だから、客観（object）であると云へば、アメリカ人といふ主観（subject）の目に見えるといふ事である。この不確定の否定的形象として出現するGodは捕捉する事が、アメリカ人にはできない。

それで、その故に/その逆の理由で、UFOが墜落して捕らへられた場所といふのがアメリカに存在して、その場所は「エリア51」と呼ばれてゐる。この区域は立ち入り禁止区域であるが、それにも拘らず/それが故に、ネット上で呼応し合ふ形で、9月20日にエリア51に集合しようといふ運動が起きてゐる。ネット上の記事をあれこれ読むと、ここに囚われてゐる宇宙人を自由にするといふ運動である。そして同時に自分をも自由に、自分のhomeも自由にするといふ見出しの投稿もあつた。自分のhomeとは、故郷でもあれば、家庭でもあれば、しかし一番広くはアメリカといふ祖国でもあるだらう。様々な思ひを抱いてここに9月20日大衆は集まる。勿論、このエリアに足を踏み入れて制止を聞かなければ、唯一絶対神の救済に向かつたこれらの天使たちは、その場で射殺されるのである。



Guard Gate at Area 51 (Groom Lake, Dreamland) near Rachel, Nevada.

Barry King

Are UFOs real? Two million people have pledged to find out. A Facebook event named Storm Area 51, They Can't Stop All of Us has become an internet sensation. Even though the US Air Force is strongly advising against it, more than 2 million people have signed up to attend the Sept. 20 event in the Nevada desert, and an additional 1.4 million are "interested" in attending (read: cowards).

X 『菊と刀』は日本民族の何が理解できなかつたか？

物事の順序で、この問いに答へざるを得ない。この問いの回答は、「IX UFOは一体何の贗物であらうか？」の問2に答へた通りです。

『菊と刀』を開くと最初のページから日本人を理解できないことの、この文化人類学者の悩みが書かれてゐる。私の読んだのは日本語訳であるが、おかしい屈折した否定形を使った自問自答の形式の修辞で、それはあつて、その修辞は結論を云へば、二項対立を



否定して第三項を見つけることのできない、その思考習慣のないアメリカ人の悩みであり、心理的屈折であり、もつと云へば、日本人に対する、そして此の女性はある文化人類学者であるならば日本民族と云つて良いであらうから云へば、日本民族に対する劣等感の表現である。学者として、論理的に此の民族を理解できないといふことの苦しみが、しかし、そのやうに率直に自虐的な修辭で書かれてゐるのです。何故ならアメリカには古代がないから。

一項目を否定すれば、当然に対立二項目めを肯定することになる筈が、日本人はさうはしない。さうはしないし、さうはならないので、理解ができないことが感情にでてゐて、それがそのまま対立二項目めの否定にならないことを例として挙げるのに劣等感が露わに出てゐるのです。私たちの二項対立否定による第三項を求めると云ふ論理である超越論が此の学者には「奇怪至極」に見える。何故なら、アメリカ人の世界では成立しない「しかしまた」といふ逆接と順接の接続詞が何の苦もなく並列し並立するのが、私たち日本民族の超越論の世界だからです。私たちはキリスト教徒のやうには二項対立によつて争はない。引用します。

「日本人はアメリカがこれまで国をあげて戦つた敵の中で、最も気心の知れない敵であつた。大国を敵とする戦いで、これほどはなはだしく異なつた行動と思想の習慣を考慮の中に置く必要に迫られたことは、今までにないことであつた。(略)

困難は大きかつた。日本の閉ざされた門戸が開放されて以来七五年の間に日本人について書かれた記述には、世界のどの国民についてもかつて用いられたことのないほど奇怪至極な「しかしまた」の連発が見られる。まじめな観察者が日本人以外の他の国民について書く時、そしてその国民が類例のないくらい礼儀正しい国民であるという時、

「しかしまた彼らは不遜で尊大である」とつけ加えることはめつたにない。ある国の人がこの上なく固陋であるという時、「しかしまた彼らはどんな新奇な事柄にも容易に順応する」とつけ加へはしない。ある国民が従順であるという時、同時にまた彼らは上からの統制になかなか従わない、と説明したりはしない。彼らが忠実で寛容であるという時、「しかしまた彼らは不忠実で意地悪である」と言ひはしない。」

以下、此の手の修辭が延々と続くのである。これが此の研究者の結論だと言つても良いのである。

AとBの対立があり、AでなければBであるとアメリカ人は思ふのであるが、アメリカ政府より文化人類学的な調査を日本人に関して委嘱された著者は、日本人の思考論理がさうではないことに気づいてゐるが、この論理そのものが理解できない。何故なら、私たちの知ることのできる第三項の名前を英語でいふ事ができないからであり、仮に日本語ができたとしても、其の第三項が日本語で何といふ名前なのかが理解できないからである。これは、アメリカ人の日本人に対する一般的な理解の限界だと私たちは理解して良い。即ち、

政治、経済、文化の領域で私たちがアメリカ人と交渉し、会話をし、または対話をする時に、またアメリカ人の書いた文章を読むときに、目に見えず起きてゐる透明な問題は、これなのである。私たちは此の問題を意識して事に当たるべきである。一々縄文土器の渦巻きのあの超越論的認識論と三階層の存在論の話、即ち哲学を持たぬアメリカ人に哲学と形而上学の話を交渉の場でしても仕様がないのである。ほら、君だつて渦巻いて回転する超越論的な円盤UFOを見るではないか。と、アメリカ人に言つても、アメリカ人には理解ができない。この問題は別途「縄文紀元論」で論じたい。

UFOは、この、アメリカの理解できない二項対立の隙間に出現する、アメリカの無意識に求めた第三項、即ち否定的な唯一絶対神なのです。上の此の文化人類学者の心理的な不安定感の、そして、自分の二項対立否定論理といふ超越論に関する自己の理解能力への限界に関する怒りの感情の在り方は、そのままエリア51に行つて宇宙人を救済しようといふアメリカ人の心情に通じてゐる。結局、21世紀のアメリカ人の求めてゐるものは、依然としてUFOと宇宙人(alien)にまつはる古代の神話であり、地球上に出現した人類の文明の異星人起源の、アメリカ製のいつもの贋の神話であり、このやうな姿形で、一神教の単線の其の一次元の直線の時間の因果律を超越した世界をアメリカ人も本当は心の底では求めてゐるといふ事なのである。それ故の「いつでも、どこでも、誰にでも」といふ古代的な汎神論的贋の存在論のアメリカ文化なのである。どうか、エリア51で9月20日に翼のない地上の天使達に死者の出ないことを祈る。

『菊と刀』の裏表紙にある編集者の書いた宣伝広告文句は、今読むと赤面に堪へない。私のやうな素人がさう思ふとは、日本の「戦後」も日本の20世紀も終はつたのである。流石に、恥を知れと云ひたい言葉は抑へるとしても、しかし、誠におめでたき、自分自身を知らぬ、哀れなる日本人の70年であつた。内外の共産党と共に、こんな日本人も滅びるがよいのだ。

「第二次世界大戦中の米国戦時情報局による日本研究をもとに執筆され、後の日本人論の源流となった不朽の書。日本人の行動や文化の分析からその背後にある独特な思考や気質を解明、日本人特有の複雑な性格と特徴を鮮やかに浮き彫りにする”菊の優美と刀の殺伐”に象徴される日本文化の型を探り当て、その本質を批判的にかつ深く洞察した、第一線の日本人論。」

”刀の殺伐”とは、これ如何に。果たして刀は殺伐としてゐるであらうか？日本刀のあの鋼（はがね）に浮く紋様は優美ではないか。この帯文の二項対立こそが、アメリカの日本人に関する理解力不足に因る苦悩と自虐の象徴であつた/あると云ふのに、ルース・ベネディクトの開巻直ぐの文章の論理に同じ文章を書いて一体どうするのだ？誠におめでたい事である。この編集者は恙（つつが）無く70年の時間の中を生きる事ができたのであらうか。「日本人論の源流となった不朽の書」は、日本人が自分の手で書く以外にはないだらうに。米国製蟻地獄の一片のお粗末（一篇になつてゐない程のお粗末）。勿論私は『菊と刀』は良書だと思ふ。もしアメリカに何かを学んだのであれば、それが何かを、アメリカ論を日本語で書けと日本人自身に、日本人である私が、日本語で言つてゐるのだ。自分の人間の脳味噌を使ふことなく、いつも海の向かうからやつて来る鰯（いわし）の頭を信ずる馬鹿理の日本人どもよ。

「日本人論の源流となった不朽の書」は、日本人が自分の手で書く以外にはない。「菊と刀」ではなく、「菊も刀も」と云ふ「しかしまた」の、あなたが日本人であるならば、『菊も刀も』を自分の言葉で書いてくれ。

サンチョ・パンサを求めて（３）

～君の中の《君》へ～

福田恆存の批評と現代と共産主義者の思考欠陥

岩田英哉

君の中の《君》へ、

ただ今福田恆存を読み終はつたところにて、驚くべし驚くべし、添付の批評に逢着、内容を一読ただただ笑ひあるのみ。何故ならば、この文発表の昭和５５年来日本の世の変わる事なければなりとぞ、見ゆるが故なるに。

この文が昭和５５年、君の著した「幻の黄金時代」１９８０年代バブル１０年の初年であれば、この著作と関係させて、日本のトリセツを論じてもらひたい。我が国のマスコミの酷さの最たるものである彼奴等のいふ「報道しない自由」は福田恆存の云ふ「知らせる義務」違反であり、愛知トリエンナーレの「表現の不自由」展も言論の自由を盾にとつた「知らせる義務」違反である事が自明である。「報道しない自由」は極左・共産主義者の盾といふわけである。かくして「報道しない自由」は「好き勝手に「報道する自由」」（トーマス・マンの用例を見れば、ドイツ語のdie Freiheit（フライハイト）、英語のfreedom（フリーダム）に好き勝手をするといふ言論上の用例あり証明可能です）と変じてゐる。

最近興味があつて橋爪大三郎といふ社会学者の本を読んだが、何故１０代後半に優秀で頭のよかつた子供がマルクス主義にかぶれると年を取っても、思考の論理に限界があるのかの原因が非常に良くわかりましたので、機会があれば詳細に書きます。其の特徴は次の二つ。

１．国家と暴力の関係を正面から論ずることができない。国家が心理的な機制となつて言葉に発することができないほどに自己検閲が激しい。これは子供の時代に暴力を無条件に受け入れたこと（共産主義の正義のためなら”人を殺してもいいんだ”と盲信したこと）と、それが憎悪を生んでゐたし/今も生んでゐるといふ自分の姿を正視できないことを示してゐる。

２．日本人でありながら日本といふ自国の文化と天皇といふ存在又は今上陛下に関して論じ始めると途端に、信じ難いことであるが、それまで欧米の学者たちの思想や原理を謂はば威風堂々と論じてゐた其の本当に優れた抽象的な概念の世界での整理と分析と分類の論理展開の語調が突然に質が落ちて（堕ちてといふべきです）、１０代後半の当時の子供の語調になつて、言葉がそこから私語の語調になつてしまふことである。ここでは感情が表に文字になつて出るのだ。これには驚いた。君に本を見開いてページを示し

て僕は証明することができるよ。「言語/性/権力——橋爪大三郎社会学論集」の258ページから260ページです。突然に考察が浅薄になり、それまでの深い洞察を（見事なものです）自ら裏切るのだ。

（読んだ著作は「言語/性/権力——橋爪大三郎社会学論集」と「言語派社会学の原理」。特に前者はここまで国家の本質に迫ってゐながら、僕の国家モデルにある「近代国家模型図」にある暴力の項が欠落してゐるのだ（後掲します）。言語—性—権力—暴力ときたら遥かに優れた論文になつてゐたらう。経済とメディアについては後者の本で論じてゐるが、これはまだ貨幣（money）とメディア論としては不十分です。敷居に足がかかつてゐるのだが。だから、この二つを論じることができれば完璧な国家論になる。しかし出来ないのだ。如上の知的能力の心理的な・自己反省上の思考限界があるから。これが日本人の極左または左翼・共産主義者で嘗てあつた人/今ある人の限界であり、思考の欠陥です。）

しかし、これは同じ経験をしてきた団塊の世代でマルクス坊やだった子供たちの知的欠陥である。といふことが非常に良く、この優れた社会学者の著作を読んで解りました（大変優れた理解力と分析力を有する学者です）。社会学又は社会科学といふ名前の科学では国家を論ずることができないのです。当たりまえですが。何故なら社会の上位に国家があるから。そしてこの順序を否定するから学問に限界が最初からあるのだ。これが共産主義であり、共産主義者の姿です。

思へば、国家と暴力については埴谷雄高も同様でした。しかし、この安部公房の発見者は、矜持あり従ひ道德あるが故に、ここで沈黙をしたし、日本の文化と天皇（すめらみこと）についての発言を自らに封じた。恥を知つてゐたのである。

西部邁さんと云ふ保守の論客であつた方も同様ではないかと思ふ（「ソシオ・エコノミクス」といふ本領の著作の題をみよ）。海外の思想をいふこと実に理路整然としてゐて理解に優れてゐるが、日本の文化と天皇といふ存在に関して正面から言葉で論ずることができない。だから、其の自分を知つてゐて矜持と道德を守つたのだと思ふ。沈黙したのだ。だから、其のやうな自分自身の持つギャップ（大きな溝）を超えようとする時には言葉なく、恥を知る人であればあるほどに（西部さんに限らず）、天皇陛下万歳！と叫ぶ一言に尽きるのです。橋爪大三郎にこの沈黙といふギャップを命を懸けて飛び越える飛躍も跳躍も、西部さんのやうには、ない。

しかし、この思考論理上の、そして情緒的な大事な感情生活上の欠陥は橋爪大三郎であれ、西部邁であれ、左右を問はずに同じである。と、僕には良く見えるよ。これが良く目に見える事になつたのが、令和といふ御代であるな。

かく思へば、日本共産党員にまでなつて共産主義を超越しようとした安部公房には逆に、不思議なことに、この欠陥はない。後年自身で、あれは、共産主義とはすれ違ひだつたんだよと回想してゐる通り。僕には戦前の共産主義者のいふ転向などなかつたから、むしろ今の若い人たちに近いかもしれないと言つてゐるのもその通り。〔註1〕安部公房の場合は共産主義との関係では、何か純粋な少年が一心不乱に共産主義の荒野を全速力で駆け抜けて生きたと云ふ深い印象がある。さう、『けものたちは故郷をめざす』と云ふ傑作少年大陸脱走・祖国列島希求小説が初期安部公房にはあるのです。そして、相変はず、晩年に箱根に隠棲しても国家を正面から論じてゐて（「シャーマンは祖国を歌う」）、その原理的な論理展開は今も私たち読者に裨益すること大きいものがあります。これは、三島由紀夫も同様ではないか。君の近々する講演の題を借りれば「安部公房は甦る」。

〔註1〕

安部公房と共産主義への接近

安部公房は、「熱病のようなものだった」（全集第30巻、626ページ）共産党員の時代を、後年そのように回顧できるだけの時間が経ち、またそれだけの年齢になったときに、次のように述べております。1978年、安部公房54歳。

「 Kommunismusへの接近も、まったく過去の屈折なしの接近だった。転向問題も何も知らずに Kommunismusに接近したという点では、むしろずっと後の世代に似てゐるのかもしれない。離れるときも、僕としてはまっすぐ一本の道を歩きつづけてきたつもりだ。結局はすれ違ひだつたんだね。」（『都市への回路』。全集第26巻、224ページ下段

福田恆存のマスメディアに関する現状分析誠にかく鋭し。後掲する添付ファイルの一読を乞ふものなり。福田恆存は当時保守反動と保守陣営に呼ばれてゐたさうだが、僕の見立てでは、今や保守などもまで消滅したに等しいので、保守反動と呼んでくれる保守もゐないと云ふ有様だよ。安部公房の読者であれば、左翼または極左・共産主義者から、左翼反動とか、極左反動とか、共産主義反動とか（さう云へば反面教師といふ毛沢東の言葉はあつたな）呼ばれたら本望であるね。まあ、安部公房の存在の師匠石川淳はこれだつたね。安部公房は死後に石川さんは本当の意味での純粋なアナキストだつたのだと思ふと述懐してゐるが。共産主義を盲信するなら、石川淳を否定して根源的に過激にradicalに生きてみる。といふ事である。

マルクス坊やはみな頭が良い子供達だったのだ。しかし其の心は70になり80になつても当時の頭のよい子供の心であつて、直接話法で彼奴等の心中の言葉を云へば”やあい、大人がそんなこと言つたって、言つてゐることとやつてゐることが違ふぢやないか”と指差して囁す子供時代の悪弊が抜けないといふことなのである。

君ね、僕は頭が悪くてよかつたよ。原野の牛や馬や羊に感謝だな。牛や馬や羊さんと話をするのにはマルクス主義と云ふイデオロギーを必要としない。こんなに橋爪大三郎みたいな恐ろしく頭のいい子供たちばかりの間に都会で競争してゐたら、橋爪大三郎みたいになつてゐたかも

知れないな、可能性 (probability) の問題だけれど。鈍く生きるといふことは大事だね。山本周五郎曰く、小説家として大成するには運・鈍・根であつたな。運があるかどうかは知らないが、確かに僕には鈍・根はあるよ。ドイツ語・ドイツ文学を学んだおかげで一層に鈍・根がある。森鷗外とか内田百閒とか埴谷雄高とか安部公房とか三島由紀夫とか西尾幹二さんとか、まあこの典型だね。生まれつき頑固な日本人がドイツ文学に学ぶと益々頑固な人間になるのだ。日本の文学史家にはもつとこの頑固者の文学的系譜を評価してもらひたいものだ。日本文学に足りないものばかりを持つてゐる人間たちだよ。そのためにまづドイツ語の辞書引いてドイツ文学の作品を直かに読んでくれ。

まだまだ言葉は尽きないが、今日はここまでとします。So weit fuer heute、ゾー・ヴァイト・フュア・ホイテ。

追伸：

今橋爪大三郎の書いた小林秀雄論を買はうか買ふまいかと思ひながら、アマゾンに行つて、商品説明を読んだら、小林秀雄の「本居宣長」の最後を日本最高の知性の「挫折」に終つたとあつたので、「挫折」といふ左翼用語の紋切り型用語の言葉を久しぶりで目にしたので、この追伸を書かうと思つた。

まづ、

1. マルクス主義者は一神教の時間観念である、時間には初めと終わりがあるといふ時間論に、この著者も拘束されてゐて自由ではなく、不自由であるといふこと。
2. 私たち日本民族の時間論は、縄文の古事記の冒頭以来、時間には始まりも終わりもないといふことであるから、小林秀雄の宣長論の終わり方は、実は始まりを意味してゐると、このマルク主義日本人の格好な知性は理解ができてゐないのだといふこと、これが商品説明で（書いたのは編集者であらう）判つたのである。小林秀雄がこの論の最後の最後に書いて、置いた最後の段落の日本語の意味が読めないのである。信じがたきことであるが。この最後は宣長論の冒頭の、宣長の自分自身の墓の設計図の話に戻るといふのに。この永劫回帰が（とニーチェならいふだらう）理解できないのだ。これは驚きでした。そして、本居宣長論の構造は三島由紀夫の『豊饒の海』の構造と同じだ。第4巻のあの庭前の静寂は第1巻の冒頭の記憶の喪失状態に永劫回帰するのだからだ。

そこで、だ。

日本人の左翼・極左の共産主義者の好きな言葉が二つあつたことを憶ひ出したよ。それは、一つは、

1. 総括。もう一つは、
2. 挫折である

といふことに21世紀の今気づいたのであります。

0。極左・左翼の共産主義者たちの被害者意識とマイノリティーとカタカナ語でいふ少数者の権利主張の根拠は常にこの「挫折」であることに、橋爪大三郎の小林秀雄論「小林秀雄の悲哀」といふのであるが、この商品説明を読んで知ったのである。

彼奴等が、自分で自分の人生を「総括」する能力が欠落してゐるのである以上、これで次の事がわかるのである。「総括」といふ言葉は歴史的事実として殺人までも含まれてゐる。従ひ、

- 1。極左・左翼共産主義者がこれまでの歴史を「総括」すると挫折の歴史の「総括」になることを知つてゐること。
- 2。この「総括」は彼奴等は自分ではできないといふこと（もはや彼奴等である）。
- 3。まさか、極左・左翼共産主義者の諸君、国家を否定して置きながら、まさか、まさか、歳をとつたからと云つて、国家から年金を受け取つてゐないよね？そんな偽善的な生活をしてゐるから「総括」もできずに挫折したままでゐて被害者面をして、また国家に乞食のやうに金を無心するのだ。といふ生活を強ひられるのは不本意だらう？直ちに、年金を国家に返上しなさい。

かく思へば、あの名にしおふ愛知トリエンナーレの芸術監督（藝術の文字はもつたいたなく使へないのである）と愛知県知事の弁解と弁明の言葉は、まさしく上記0、1、2、3の指摘の通りの言葉であるな。この二人と実行委員会の委員達はまさか年金を受け取るつもり/受け取つてゐるのではあるまいな。しかし、しかしである、恥を知れ！と悪罵を投げつけて、それで、はいお仕舞ひ、といふことにならぬほどに、今の日本は狂気に堕ちてゐて其の狂気に無自覚なのである。目には目を、歯には歯を、狂気には狂気を。日本人もそろそろ70余年の時間の間に被つてきたゴジラやポケモンやマジンガーZやガンダムやウルトラマンのぬいぐるみの化けの皮を自ら剥いで、ユダヤ教徒やキリスト教徒のやうに振舞つては如何か。人を殺すといふことは、あらゆる意味に於いて、狂人が正気を取り戻す手段であり正しい道であるのかも知れないではないか。ルソーの言葉であつたか、ランボーの言葉であつたか、こんな言葉があつたな。それともニーチェだつたかな。さうだ、禅の言葉に、仏に会つたら仏を殺せといふのがあつたな。

目を覚ませ！、もう真昼だ。仏に会つたら仏を殺せ！

【添付ファイル1】

福田恆存の批評「知らぬが勝ちが「言論の自由」か」の「結語－海外派遣員心得」です。

知らぬが勝ちが「言論の自由」か

で何の音沙汰も無いのである。
 * 1 これは「自由は不^ふ断^{だん}にある、が、シンディケイトやマフィアによる治安、人権を犠牲に
 して得られたものである」式の論法と同様「が」の前後の主文と従属文とを逆にしても成立す
 るもので、どちらを主文に持つて来るかは書き手の主観によつて左右され、また、その主観は
 対象の實情に對する認識と理解によつて左右される。

* 2 私は「強調」したのではない、その事は前述の通り、事實と意見との差を考慮して、敢
 へて「些事」と思はれる事實を取上げただけの事である。「黒眼鏡」の筆者フランニング氏は
 その文末に「朴は國民に恐怖を與へさへすれば、彼等を服従せしめ得ると信じてゐる、或る批

評家は最近さう言つてゐた」と書いてゐる。この「批評家」の言は意見であり、それを取上げ、
 「不當に強調し過ぎた」のは、これまたフランニング氏の意見である。それに「或る批評家は
 言つた」式の記事は現地を見ず、その歴史や實情を知らなくても、ニュー・ヨークに在るニ
 ーズウィーク本社の自分の机の前に坐つたままでも書けるし、誰も言はなかつた事でも、さう
 言つたと書いても、「筆が滑つた」程度で、責任を取らずに済ませる。だから、私は敢へて「黒
 眼鏡」の「些事」を「不當に強調」したまでの事である。韓國にはその苦難の歴史が生んだ實
 に見事な諺が多い、その一例——「二人の人間が南大門について論じ合へば、それを一度も見
 た事の無い人間の方が、實際に見て知つてゐる人間に必ず勝つ」この「知らぬが鬼」の逆説的
 眞實を見逃し放置するのが「知る權利」——「言論の自由」の眞意なのであらうか。

* 3 「筆が滑る」といふのは、譬へば「強力な政權」を「頑強な政權」と書いた時の事で、
 眼鏡を掛けてゐない人間に黒眼鏡を掛けさせてしまつた場合、日本ではさうは言はず、「嘘を
 言つた」と言ふ。

四 結び——海外特派員心得

私がクリチャー氏を組上に載せて論じたのは、松原氏の皮肉の通り、日本は戦後、「言論の自
 由」といふ事をアメリカによつて教へられたと教へられて來た爲、日本の新聞はアメリカの新聞、
 週刊誌の論説、報道に對しては、日本の政府以上に對米追隨の姿勢から脱し切れず、殊に韓國、
 臺灣海峡をはさむ兩中國、及び東南アジア諸國に對しては、その時々のアメリカの新聞論調に忠
 實であり、その顔色を窺ひながら物を言ふ習性がすっかり身に附いてしまひ、そのアメリカの代

知らぬが勝ちが「言論の自由」か

目的、手段、言動等、すべてを不問に附し、これを我武者羅に激勵するといふ性癖を持つてゐる。(4) 随つて彼等は報道の必要條件である取材に餘り熱心ではない、といふより殆ど取材しない。ニュースウィークのプランニング氏の様に「或る批評家は言つた」式の取材は、眞の意味の取材ではない。なぜなら、氏は英語しか喋れず、英語、或は米語の喋れる者を「權威ある批評家」と見なし、さういふ連中からしか國民の聲を聞く事が出来ないからであり、さういふ連中はアメリカの新聞人が共鳴し得る考へ方の持主で、その耳をくすぐる様な事しか喋らないからである。さうなると、戦争中の吾が軍部と同様、自分の好まぬ情報に拒否反應を呈するばかりでなく、さういふものに觸れる機会さへ無くなる。そもそもをかしいのは、中國には今年の四月から北京に支局を設けておきながら、ソウルには支局を置かず、東京支局長のクリンジャー氏が事ある時に限り出張して取材にあたつてゐた事である。尤も朴大統領暗殺事件後は香港のナゴルスキー氏が主として韓國報道の専任となり、時にワシントン、ニュー・ヨークから助人が急派される様になつた。しかし、彼等もやはり韓國語は喋れない。英語は確かに國際語ではあるが、報道の任に當る者は外交官以上に、そしてCIAやスパイの様に、當該國の言葉に堪能でなければならぬ。

それは日本の特派員についても言へる。ただ今のところ韓國には、日本語教育を受けた五十代前後の人々があるので、歐米人より有利ではあるが、朝鮮戦争直後に生れた人達が既に三十歳を超えようとしてゐる。支局に韓國人を雇つて事を済ませようとしてゐる意欲な取材法で韓國國民の心が揺るがぬ筈が無い。アメリカ人にせよ、日本人にせよ、自國語が通じないのは、相手が悪いのだといふ態度で臨むのは、日本統治下に日本の神社を半島各地に建立し、八百萬の神々を禮拜せしめた悪習と少しも變らない。それは言葉ばかりではない、任地の歴史、民族性、近代化の發展段階について、最小限の知識と理解とを持ち、批判する前に、先づ自國の歴史を顧みる事が、何

153

表的週刊誌ニュースウィークの東京支局長が蔭では日本の言論、出版、表現の自由を抑壓しようと策謀した事實を知らないであらうと思つたからである。いや、たとへこの私の一文によつてそれを知つても、「黒眼鏡」同様の「些事」として無視するに違ひない。が、もし新聞が毎年十月「新聞週間」なるものを設け「知る權利」「知らせる義務」を自畫、讀する標語を顧客たる他人に「強制」し続ける積りなら、自國ならぬ韓國の言論抑壓を非難する前に、自國ならぬアメリカのジャーナリストが日本の言論抑壓に乗出して来る事の方を重大視し、これを排除しようと努めるべきではないか。それとも話は逆で、他國の「言論の自由」や「民主主義」の度合ひを自國のそれより氣にするアメリカの、或はクリンジャー氏の流儀に倣つて、殊更に韓國のそれを氣にし、南大門を見ずして、ひたすら自らの「言論の自由」を満足させる爲に、威丈高に相手國の主權を無視するが如き言論攻撃を試みる事を「前宗主國」の特權と心得てゐるのであらうか。

私は日本の新聞に、特に政治部の記者諸氏に次の二點について反省を求める。

(1) 韓國初め中國、東南アジアの報道について對米追隨の姿勢と言つたのは、「口が滑つて」の皮肉に過ぎず、新聞人の心情は無意識のうちに、或る特定のイデオロギイによつて支配されてゐる、それは言ふまでもなくマルクス・レーニン主義である。國際政治の現實は、その虚妄を少くとも三十年前に實證した、が、それは形骸化し、「イデオロギイの終焉」といふ假面を被る事によつて、却つて亡靈の如く、インヴェイダーの如く、無意識のうちに人々の心情に忍び込んでゐる。嘗て國家の枠を超えて團結し得るものと考へられた萬國のプロレタリアートといふ言葉に代るものとして、今は、それに相當するものは新聞人であらう、中でも先進國のうちで政治的指導力が最も弱體化した日本では殊にさう言へる。彼等は國家の枠を超えて團結し、何處の國の政治權力をも批判し、それぞれの國の抵抗者を、ただ彼等が「反體制的」であるといふだけの理由で、その

152

問ひ質したき事ども

某月某日
文化大革命が始つたのは十五、六年前である。それ以來、中國の紙の出來がどんどん悪くなり、六、七年も経つた頃であらうか、王子製紙の「紙の博物館」の館長をしてゐた人で、紙を見れば、それがどの紙だか、直ぐわかる位の人物だつたが、或る時、徳鄰堂の主人を訪ねて、六、七種の宣紙(畫仙紙)を見せて貰ひ、それぞれが一體、どこの紙だか見當がつかない、さう言つて首をかしげてゐたさうである。勿論、それまでは、一見して何處の紙だか、わかつたのだ、その人ももう亡くなつた。

前から私は言ふことが無くなつたら、習字でもしようと思つてゐた。その紙は徳鄰堂、雪江堂、はいばら等で買ふが、それらは横に幾つかに折つた紙一反百枚分の耳の所に、「玉版 棉料 單宣 安徽省涇縣」などと赤い版が押してある。「棉料」は紙質で「單宣」「二層宣」は厚さのことである。四、五年前、偶々三越の本店に立ち寄つたところ、中國の紙がどつきり來てゐて、それが普段、求めてゐるものと違ひ、中國直輸入の形そのまま、「淨皮單宣紙」「中國畫仙紙」といふ紙が貼りつけてあつたので、半信半疑ながら二、三種購買つて來たことがある。その前、文化

155

より必要であらう。

* 1 サンケイ出版社刊、拙著『世相を斬る』所収、「ワシントン・ポスト編集局長サイモンズ氏との對談」参照。

* 2 遺憾ながら、日本の新聞記者諸氏はソウルや臺北の特派員を命ぜられるより、パリ、ロンドン、ワシントン、ローマの特派員を命ぜられる事を出世の早道として喜ぶであらう、韓國報道偏向については、そんな卑俗な原因も案外無視出來まい。

* 3 「日本よ、汝自身を知れ」参照。

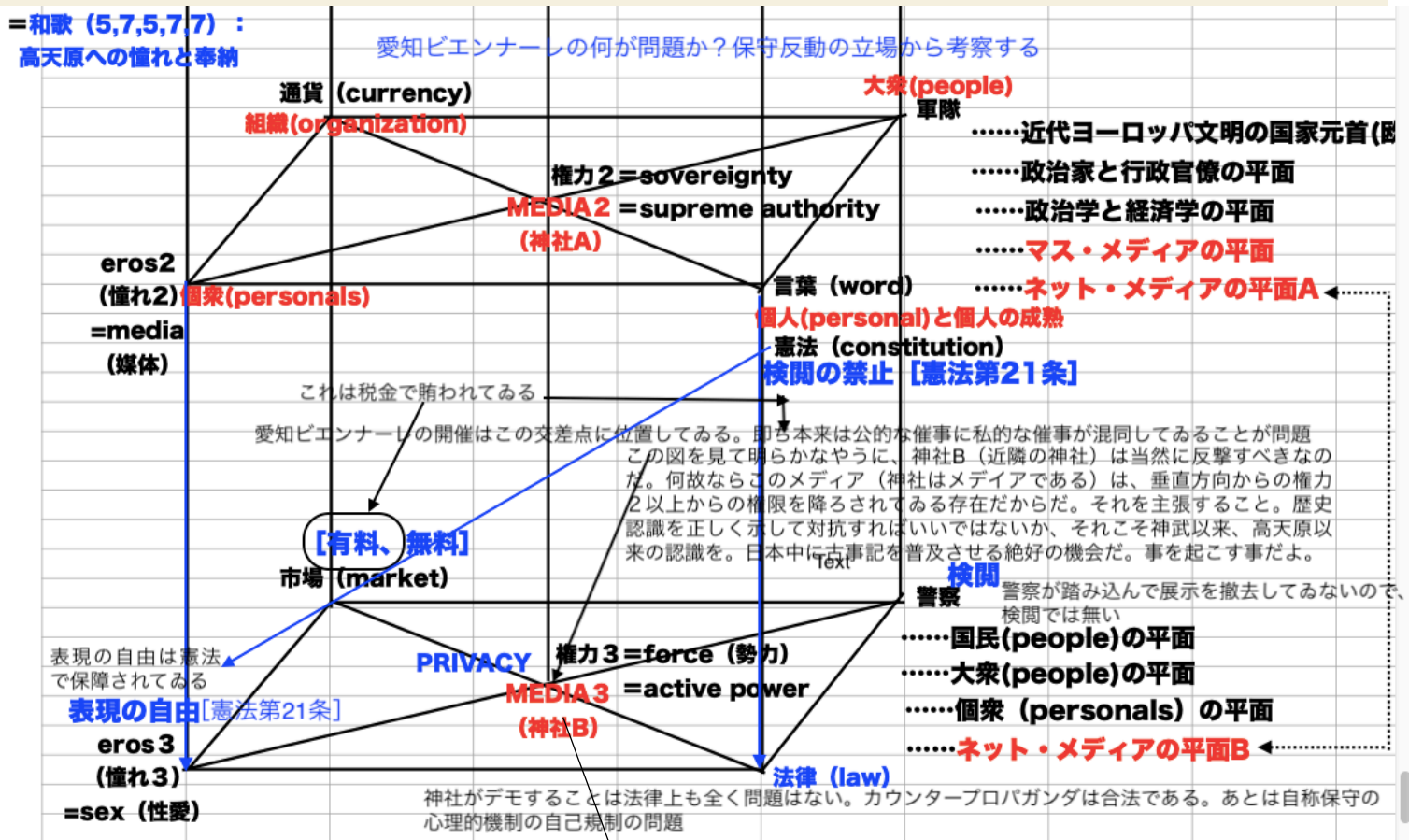
追記 クリンジャー式陰謀は、讀者には意外であらうが、私達同業者間では、さして驚くに當らない、政府權力による言論弾壓は今や殆ど無きに等しいが、昨今、その隙に乗じて學者、評論家、小説家などにも人脈、派閥が生じ、〇〇氏を親分と仰ぐ〇〇軍閥と稱されるものが結成され、それが誰に書かせるな、彼には書かせると、出版社の一角を乗取り、言論人自らが「言論の自由」を封殺する傾向が屢々見られるやうになつた。權力欲は何も政治家特有のものではなく、なべて世の人の性らしい。が、それも度が過ぎれば、いつか大掃除に乗出さねばならぬと思ひ、私は小まめにその情報、證據を集めてゐる、思ひ當る諸氏よ、願はくは今のうちに己が罪を悔い改められん事を。

(文藝春秋「昭和五十五年十二月號」)

154

【添付ファイル2】

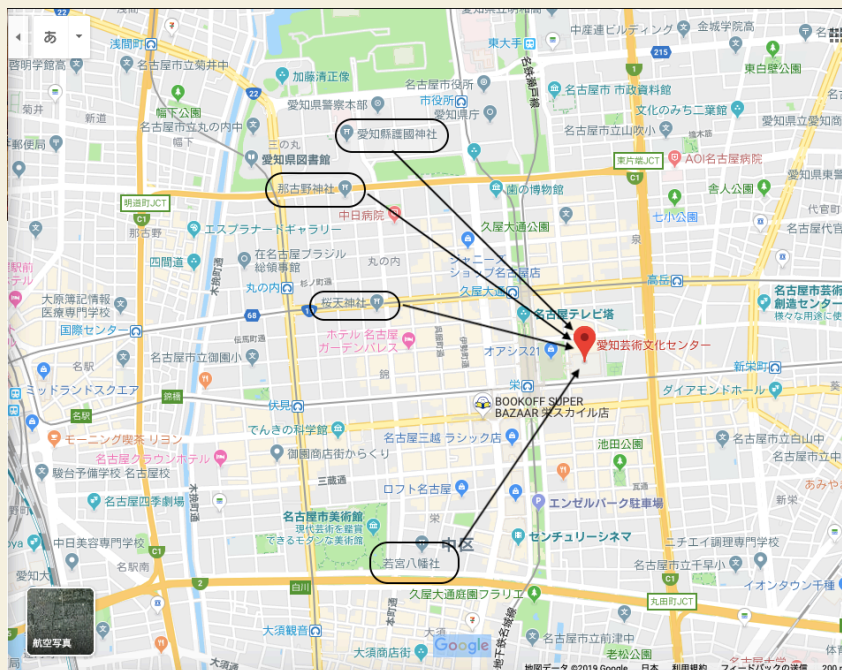
愛知トリエンナーレの企画展示と日本国家の関係



この「近代国家模型図」全体のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/G4YcHH9/v7.pdf>

神社Bの位置。

歳とともに
過激に、根源的に、
即ちradicalになる
私である。それであ
なくて、何の安部公房
の読者であり、石川
淳の読者であるの
か？人間は死ぬまで
成長する。葛飾
北斎がさうであつた
/あるやうに。
あなたも歳とともに
根源的で過激な人生
を送らうではない
か。



これらの神社の怠惰な神
官達は一体何をしてゐる
のだ？笙・箏・篳篥 (ひちり
き) を奏でながら雅やか
にデモ行進を愛知芸術文
化センターまで行ふべ
し。怒り神道に発せよ。
文化の非核三原則を廃棄
して、日本文化の核であ
る天皇といふ核の文化爆
弾を極左・左翼共産主義
者たちの頭上に落とせば
よいではないか。私なら
さうする。ことを荒立て
ること最上の時代が令和
である。平成もさうであ
つたが、時代は時代の名
前を裏切る。『太平記』
の時代がどんな時代であ
つたか。

リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む

(49)

第2部 XXIV

～安部公房をより深く理解するために～

岩田英哉

O DIESE Lust, immer neu, aus gelockertem Lehm!
Niemand beinah hat den frühesten Wagnern geholfen.
Städte entstanden trotzdem an beseligten Golfen,
Wasser und Öl füllten die Krüge trotzdem.

Götter, wir planen sie erst in erkühnten Entwürfen,
die uns das mürrische Schicksal wieder zerstört.
Aber sie sind die Unsterblichen. Sehet, wir dürfen
jenen erhorchen, der uns am Ende erhört.

Wir, ein Geschlecht durch Jahrtausende: Mütter und Väter,
immer erfüllter von dem künftigen Kind
daß es uns einst, übersteigend, erschüttere, später.

Wir, wir unendlich Gewagten, was haben wir Zeit!
Und nur der schweigsame Tod, der weiß, was wir sind
und was er immer gewinnt, wenn er uns leiht.

【散文訳】

ああ、このよろこび、いつも新しく、緩（ゆる）くした粘土の中から生まれてくる。
だれもほとんど、一番初期の冒険者たちに力を貸さなかった。
それにもかかわらず、都市という都市が、祝福された湾のところに生まれ、
それにもかかわらず、水と油が甕という甕を満たした。

神々を、わたしたちは敢然たる企図の中で計画するが、
気むづかしい運命は、わたしたちが折角計画したのに、その企図を再び破壊してしま
う。

しかし、神々は、不死のものたちだ。そうだろう、わたしたちは、終（つい）には
わたしたちの願いを聞き届けてくれる者のいうことを盗み聞きしてよいのだ。

わたしたちは、幾千年を通じて亘る種族だ。父たちと母たち、
子供が、境界を越えて行って、いつかは、そのあとも
わたしたちを驚かせよという思いを以って、未来の子供によって、
いつも一層満たされる、そのような父たち、母たち。

わたしたちは、わたしたち果てしない冒険者たちは、時間が何だというのだ！
そして、沈黙がちな死神だけが、わたしたちが何であるか、
そして、死神が貸与するときには、いつも、何を獲得するかを知っているのだ。

【解釈と鑑賞】

前のソネットで、時間がわたしたちに反抗することと、その克服を主題としたので、同じ主題が、別の視点から、歌われている。個人に焦点を当てた時間ではなく、歴史的な、人類の時間に焦点を当てている。

第1連第1行の粘土は、第4行目に出てくる壺や甕を作る粘土です。これは手による仕事だということが意識されている。手がものを創造し、都市と文明を創造する。

そうして一番最初の草創の時期に苦勞をした人間たち、後から来る者たちのために、未知の領域に挑戦した無償の冒険者たち、この先駆者には、ほとんど誰も力を貸さなかった。これはいつもそうであったのではないのでしょうか。しかし、それでも、それにもかかわらず、数多くの都市は生まれた。祝福された複数の湾のほとりにとあるので、世界的な交易が想像されます。そのように都市は繁栄し、文明は栄えてきた。そうしてまた、冒険者たちの苦勞をひとは全く省みることがなかったにもかかわらず、水と油は甕を満たした。水と油が甕を満たすとは、生活が豊かであることの謂いです。

この「にもかかわらず」に、わたしは、第1部ソネットXIに歌われている「大地から生まれでた名誉心」を感じます。話者のもつ、騎士の名誉心を。これは、冒険者の名誉心でもあるでしょう。ひとに敢て省みられなくとも挑戦するという無私のこころ。旅する騎士。

第2連では、わたしたちは、神々をも計画するといっている。しかし、それは運命がやってきて再三再四壊してしまう。神々を計画するという表現は微妙です。神々を創造するとはいっていない。そこに至らない。計画しては、その計画は壊される。しかし、他方神々は既に存在していて、不死のものとしてある。だから、願いを聞き届けてくれる神のひとりのいうことを盗み聞きしてもゆるされるだろう。わたしたちが勝手に神を選んでゆるされるだろう。そういっているのだと思います。

第1連は人間の営み。第2連は神々と人間の関係。第3連では、神々のようには不死ではない人間が、どのように時間を越えてきたかを歌っています。それは、平俗な言い方であれば、子々孫々、代々何かを受け継ぎ、後生が先生を乗り越えて、新しいものを創造してきたのだといっている。

第4連では、わたしたちは、第1連から第3連で歌った、そのような冒険者であると歌っている。

だから、Was haben wir Zeit!、ヴァス・ハーベン・ヴィア・ツァイト！、時間が何だっ
てんだ。時間なんか糞くらえだ！と過激に訳したい。第4連の最後の2行、

「そして、沈黙がちな死神だけが、わたしたちが何であるか、
そして、死神が貸与するときには、いつも、何を獲得するかを知っているのだ。」

これは何を言っているのでしょうか。

わたしたち冒険者は、死神から何かの貸与を受けるということをしない。それは時間の中で享楽に身を任せるということは、それまでの連の冒険者からいって、しないのです。ですから、死神が何かを獲得して、それ一代で冒険者の仕事を終わりにするという
こともないし、できない。それが冒険者だといっている。

他方、この2行のような、死神のすることがこれだという表現の仕方をしたのは、人間というものは、一体にそのようなものだからでしょう。つまり、別に享楽ばかりではなくとも、前のソネットに歌われているように、時間は、不断にわたしたちに抵抗する。この世の生の時間には限りがある。それが人間に与える限界と、その限界を突破するために、人間が死神の力を借りて、無限の命を授けることを願うことを死神は待っている。あるいは、限られた時間の中で、個人的な夢を実現することの願いを待っている。自分だけの人生を考えるために、死神と取引することを人間は考える。冒険者はそうではない。死神が何を貸与し、何を獲るかは、その目的語をリルケは敢て略しているので、そのような与奪の関係にあり得るものがすべて、死神との取引の目的語になります。

わたしはこの最後の2行で、第1部ソネットIXの第2連を思い出します。そこでは、

Nur wer mit Toten vom Mohn
aß, von dem ihren,
wird nicht den leisesten Ton
wieder verlieren.

【散文訳】

死者と一緒に、ケシの花を食べたもの、死者のケシの花を食べたものだけが
かすかな音をも、再び、決して失うことはない。

【安部公房の読者のためのコメント】

この詩の第一連を読んで連想するのは、やはり初期安部公房の大好きだつたリルケの
『涙の壺』です。以下に再掲します。

「『涙の壺』とは何か

涙の壺についての説明のダウンロードは：<https://docdro.id/YL3pogc>

『魔法のチョーク』論（もぐら通信第52号）より引用します：

「この涙は、安部公房の愛唱したリルケの詩のうちの一つ『涙の壺』に歌はれてゐる
涙です。〔註1〕

〔註1〕

『涙の壺』

Tränenkrüglein

Andere fassen den Wein, andere fassen die Öle
in dem gehöhlten Gewölb, das ihre Wandung umschrieb.
Ich, als ein kleineres Maß und als schlankestes, höhle
mich einem ändern Bedarf, stürzenden Tränen zulieb.
Wein wird reicher, und Öl klärt sich noch weiter im Krüge.
Was mit den Tränen geschieht? — Sie machten mich schwer,
machten mich blinder und machten mich schillern am Buge,
machten mich brüchig zuletzt und machten mich leer.
(<http://www.textlog.de/22406.html>)

【散文訳】

他の者たちは葡萄酒を掴み、他の者たちは油を掴む
これらの者の囲壁を一定の範囲で囲っている、この中空になった丸天井の中で

わたしは、より小さな尺度として、そして最も痩せたものとして、
わたし自身を穿って、中空にし、窪ませて、他の欲求を満たすものとなす。墜落する涙
のために。

葡萄酒はより豊かになり、そして油は壺の中でより清澄になる。
涙には何が起きているのだ？一涙は、わたしを重たくした、
わたしを目くらにした、そして、わたしの足の関節を玉虫色に光らせ、わたしを遂には
破れやすい脆（もろ）い
ものにし、そして、わたしを空にしたのだ。

【解釈と鑑賞】

この詩は、何を歌っているのでしょうか。

第1連で歌われているのは、わたし以外の他の人々の行為です。
ひとつは、葡萄酒を掴み、ふたつは、油を掴むというのです。

リルケの最晩年の傑作二つの詩作品『オルフェウスへのソネット』であったか、『ディー
ノの悲歌』であったかの一節に、やはり壺と、これら葡萄酒と油のことが歌ってある一
節があります。これを読むとリルケは、葡萄酒の壺や油の壺で、人間の文明が誕生し
て、都市が生まれて、社会が生まれ、そこで交易をして生活をする、そのような生活の
豊さを表すものとして、この二つを使っています。
これと同じ理解をここでも適用することで、この第1連は理解することができます。

しかし、わたしは、そのような都市や人間の生活の豊かさを享受する者ではない。そう
ではなく、全く逆に「墜落する涙のために」いる者だとあります。

「墜落する涙」とは、涙を流しながら墜落してゆくということであり、そのように墜落
するときに涙を流すという意味でしょう。

この涙を流すと、人間は墜落するというのです。そして、それは、「他の欲求のために」
墜落するのです。この「他の欲求」の他とは、わたし以外の他の人々の欲求とは異なっ
てという意味です。即ち、わたしは、葡萄酒や油の壺を手にしらないのです。

そして、この欲求に身を任せると、自分自身が空になり、窪みになる。

この空になり、窪みになるという形象（イメージ）は、10代の安部公房がリルケを読
み耽って我がものとした形象のひとつです。この窪みが、後年『砂の』女の砂の穴とい
う窪みに成長します。

第2連では、そのようなわたしと社会との関係が歌われています。

わたしが空になればなるほど、窪みになればなるほど、社会の、都市の葡萄酒と油は、より豊になり純度が増す。

これに対して、全く反対に、わたしの身に起こることは、

「涙は、わたしを重たくした、
わたしを目くらにした、そして、わたしの足の関節を玉虫色に光らせ、わたしを遂には
破れやすい脆（もろ）い
ものにし、そして、わたしを空にしたのだ。」

とあるようなことになります。

この詩の題名は、邦題は『涙の壺』ではありますが、ドイツ語ではTraenenkrueglein、
トレーネン・クリュークライン、ですので、正確に言えば、涙の小さい壺、涙の小壺とい
う意味です。

つまり、リルケは、このわたしは、葡萄酒の壺ではなく、油の壺でもなく、涙の小さな
壺（凹）だといっているのです。それが、わたしである、と。

しかし、そのようなわたしは、他の人々よりもより小さな尺度であり、最も痩せたもの
としてあるのです。即ち、この測定者としての小さな存在であるわたし、そして、その
ような存在として社会に対してある最も痩せたものとしてのわたし、リルケはこのよう
なわたしを『涙の小さな壺』と呼んだのです。

10代の少年安部公房は、この詩をこのように誠に正確に理解したことでしょう。繰り返
し、後年引用するほどに。

翻って、第1連を読みおすと、わたし以外の、社会の中に生活する豊かな人々の周囲に
は壁が巡らされていること、そして、その壁の上には、中空の丸天井があつて、わた
し以外の他の人々は、その天井の下で生活していると歌われています。

このリルケの歌った都市の生活の抽象的な表現についても、少年安部公房は、よく理解
をしたことでしょう。

18歳の安部公房は、そのような社会を、『問題下降に抛る肯定の批判』と題した論文
の中では、社会は「蟻の巣」だとしています。その蟻の巣である閉鎖空間から脱出す
るために、安部公房自身もまた涙の小さな壺になろうと決心したのです。

この詩には、既に『赤い繭』や『デンドロカカリヤ』の種子が胚胎しています。そういえるならば、『砂の女』や『他人の顔』の種子もまた。

ちなみに、このリルケの詩について、1948年7月4日付で、安部公房は中田耕治さんに次の手紙を送っています。

「しかし若し僕が想像するように、君が割切れた合理的な仮面(?)の背後に、弱々しい、余りにも感じ易い、例えば跪いガラスの鉢、リルケが歌った涙の壺のような眼を隠してゐるのだつたら、僕はさう思へてならないのですが、僕等は今後もつと別なやうに、今までとは異つたやうに話し合つたはうが良くはないかと思ふのです。」

(『中田耕治宛書簡第1信』全集第2巻、50ページ上段)

また、安部公房の10代の詩集『没我の地平』所収の詩『詩人』と題した詩の最終連に、リルケの『涙の壺』を念頭において書いた「悲哀の壺」といふ言葉が出てきます。(全集第1巻、157ページ)。

「この様に
外の面が内を築きあげ
移ふ生身で悲哀の壺に
歓喜の光を注ぎつゝ
久遠の生に旅立つ事が
吾等詩人の宿命(さだめ)ではないのか」
(全集第1巻、157ページ)

また、『S・カルマ氏の犯罪』の中に、リルケの『涙の壺』や自らの詩の中にあつて上の詩のやうに歌はれたのと同じ動機(モチーフ)による次の詩がある。これが、安部公房の「革命歌」であることは、この詩の後の次の行でS・カルマ氏の世俗社会の中での名前である名刺が「「そんな革命歌なんてあるものか!」名刺はますます腹をたてて叫」んだとあることで明らかです。リルケの「涙の壺」は、安部公房を介して、安部公房の共産主義(Kommunismus)の理念の中に生き続けたのです。

「おれは水蒸気の中で殺されて
丸くなった。
しかし饅頭ではない、
なぜなら中味が空っぽだからだ。」
(全集第2巻、413ページ上段)

この『S・カルマ氏の犯罪』といふ作品は、1951年の作品です。安部公房は、当時中田耕治さんと二人で立ち上げた「世紀の会」のための宣言書として、『世紀の歌』とい

ふ題の詩を1949年に書いてゐます。後者は、生きてゐる人間のために涙する詩人の涙の蓄へられる壺と、詩人自身が其の壺になつて、即ち自己が空虚な壺になつてゐる其の自己との関係を歌つた同じ主題が、しかしもっと涙をを中心の主題にして、これからは「日々」の時間を「乾かして」「涙の壺」を、即ち涙を乾溜すべきことが、それによつて空間的な空虚の壺を、自分自身がミイラになる其のやうな壺である自己を創造することが歌われてゐます。この詩は次のやうな詩です。「涙の壺を蒸溜」するための「火を消すものがやつてきたら」自分自身がミイラになる其のやうな壺である自己を創造することが歌われてゐます。

「世紀の歌

ぼくらの日々を乾かして
涙の壺を蒸溜しよう
ミイラにならう
火を消すものがやつてきたら
ぼくら自身が火となるために！
[1949.3.15]」

『世紀の歌』と『S・カルマ氏の犯罪』の2年ほどの間に、安部公房の上記のやうな詩人から小説家への進境があります。丁度この努力の中間地点に、『牧神の笛』といふ、詩人から小説家への此の進境にかける決意と覚悟を示した1950年の作品が位置してゐます。安部公房は自らが火になる覚悟をし、「涙の壺」を蒸溜して、乾かせて、1951年に『不思議の国のアリス』に出逢つて、散文家としての乾いた明るい、日本共産党員になる以前に於いての乾いた文体を獲得するのです。日本共産党員の10年を閲した後に、この乾いた文体はもつと進境して、その後の小説の世界で読者に馴染み深い黒い笑い（ブラックユーモア）の横溢する典型的な安部公房の文体になります。この経緯の詳細は、『安部公房と共産主義』（もぐら通信第29号）に詳述しましたのでご覧ください。

さて、長い註釈とはなりましたが、『魔法のチョーク』（1950年12月1日）は、このやうに、その前に書かれた『デンドロカカリヤ』（1949年8月1日）と同様に、安部公房の散文としての『涙の壺』であり、『赤い繭』（1950年12月1日）もまた同様であつて、この時期の安部公房の努力と散文家への確かな方向を示してゐるのです。その根底には、しかし、リルケの詩想のみならず、他方論理的には位相幾何学のあることは、いふまでもありません。

[註1.1]

「安部公房の心の穴」と『涙の壺』といふ詩について『安部公房と共産主義』（もぐら通信第29号）より、標記に関係して[註13]を次の通り引用して、「涙の壺」を巡る大切な事柄をお伝えします。

「ナンシー・S・ハーディン（シールズ）との対談で、安部公房は、その旺盛な創作活動の由って来るところは何かと訊かれて、次のように答えています。1973年、安部公房49歳

「創造力はある意味での欠乏から発生するのではないかという気がします。いわば「油切れ」と同じようなものからね。それはネガティブな圧力であり、一種の空虚であるわけです。もっと具体的に説明するために、二人の作家の名前を挙げましょう。エドガー・アラン・ポーとフランツ・カフカです。二人とも同じネガティブな感覚を共有していたようにぼくには思われるのです。これは、ぼく自身の問題だけではなく、むしろ他人が何を望んでいたかという問題です。だれしも心の中にからっぽの穴が空いている。そして、できるなら、ぼくはその穴を埋めたいのです」（『安部公房との対話』ナンシー・S・ハーディン。全集第24巻、468ページ。）

「ぼく自身の問題だけではなく、むしろ他人が何を望んでいたかという問題」という安部公房の考えは、これはこのまま10代で確立した安部公房の自己と世界の関係の、即ち外部と内部の交換の、そして作家と読者の関係の本質を言っているのです。これは、19歳のときに書いた『〈僕は今こうやって〉』以来、終生変わることがありませんでした。

さて、トーマス・マンも、安部公房と全く同じことを言っています。世の人は才能があるというが、実はさうではないのだ、才能とは、欠落なのだ、と。この欠落を言い変えて、etwas Unmenschliches（非人間的なもの）と言っています。

安部公房が詩人から小説家にならうと努力したときに書いた『牧神の笛』でも、リルケに同じものを発見して苦しむ安部公房がおります。あんなに10代で溺れるようにして読んだ素晴らしい詩作品を書いたこの詩人が、実に冷酷な人間であることに気づいて、驚くのです。そして、詩人から小説家（散文家）になるために、その冷酷な人非人の人間になろうとする決心を、このエッセイの最後で披露しています。それも、自己再帰的に、自分の

血を啜（すす）る半獣半神の、牧神のような生き物として。つまり、詩人のまま小説家になろうという決意なのです。リルケに倣って。そして、この試みが成功するには、日本共産党員の時代を経験しなければなりません。これについては、来年1月号に『安部公房と共産主義』と題してお話しします。

さて、この「欠乏」は、安部公房の場合は、「それはネガティブな圧力であり、一種の空虚であるわけです」と言っていることからわかる通り、これは『S・カルマ氏の犯罪で、主人公の持っている胸の陰圧として形象化されたものですし、後年の『方舟さくら丸』

では、何でも吸い込んで処分してしまう便器として、物語の中心の座を占めて、登場するものです。

安部公房のこのブラックホールのような便器への執着が、何故なのか、何に由来するのかということは、『もぐら感覚15：便器』（もぐら通信第13号）で論じましたので、お読み下さい。

しかし、それ以前には、安部公房は自分にじっくりとくるこの空虚、心の中に空いているからっぽの穴は、やはりリルケの『涙の壺』に同じそれを見て、数理・論理的にであるばかりではなく、自分自身の生理的な実感としても、この詩を理解していたのです。この詩については、この註〔註1.1〕の上位の註〔註1〕で訳し、解釈と鑑賞をつけたのでお読み下さい。

この詩を読むと、『S・カルマ氏の犯罪』の前の『デンドロカカリヤ』（1952年12月）も、その後の『赤い繭』や『魔法のチョーク』（共に1950年12月）も、安部公房の同じ生理感覚と論理の上に成り立っていることがわかります。

そして、そればかりではなく、論理と生理的感覚としては、それ以外のすべての作品に、安部公房の変形の論理と一緒に、この空虚のあることがわかります。

更に、安部公房は、冒頭の引用の後、この対談で次のように言っています。

「しかし、一度書き出してしまったら、不思議なことに、書いている作品自体が主導権を握り、ぼくはそれに従うしかない。もはや自分が書いているものを支配できなくなるんです。ある段階を超えてしまうと、自分ではコントロールできなくなる。」

これは、この空虚を持ち、知っている言語藝術家だけが覚える言語の自己増殖です。同じ経験を、トーマス・マンは繰り返し述べています。言語組織が、自己の意思を持って増殖し、有機体を完成して行く。

他方、普通の言語使用者は、言語を制禦（コントロール）できると思っていて、そのように言葉を使用することをよしとするのです。これが、普通の世間に棲む人間たちの世界での言語についての考え方です。法律も、この考え方でできている。しかし、安部公房の主人公たちは皆、法律の外に、無名の、世間に未登録の人間として生きています。

冒頭に引いたこの対談は、これ以外にも実に贅沢に安部公房の主題と、安部公房自身による解説がされていて、安部公房の読者には欠かすことのできない資料の一つであると思います。

何故か、リルケについて、その周辺のことについて語り始めると、安部公房は誰にも言わない本当のことを語り始めるのです。リルケについて語るところ、散文家としての自分にとってのリルケの意義について語るところを読むと、安部公房がリルケをどうやって「否定的媒介」として考えて、自分が散文家になったのかが、よくわかる論理を、別の率直な言葉で語っております。（全集第24巻、473から474ページ。また、476ページ

上段）

また、その他にも、小説や戯曲を書くことや舞台をつくることは、時間の空間化であること、函数関係で表現することであること、革命と安部公房の理解した実存について、その覚悟について、『箱男』に挿入した8枚の写真について等々、この『箱男』刊行後の安部公房の考えをふんだんに、実に贅沢に、安部公房は率直に開陳しています。

戦時中に読んだ哲学者の名前として、ヤスパース、ハイデッガー、フッサールの名前を挙げています。しかし、ニーチェの名前を挙げていない。ということは、それほどニーチェは、安部公房にとって深く理解をした大切な哲学者であったのです。10代の、哲学談義をした親しき友、中埜肇宛の書簡を読めば、安部公房がどんなにニーチェを、これもリルケと同じ位に、溺れるように読んだかが判ります。ニーチェは、何よりも、安部公房生涯唯一のプロット、閉鎖空間からの脱出と帰還の永劫回帰の覚悟を教えてくれた哲学者であるからです。

このインタビュアーは、『安部公房の劇場 Fake Fish The Theater of Kobo Abe』という、安部公房をよく理解した人間の書く素晴らしい本を書いておりますが、この対談でも、安部公房の持つ純粋数学への嗜好を自分は知っていることを伝えて、安部公房の本音を引き出しています。

安部公房は、このインタビュアーに心をゆるし、思わず、

「これは普通人に話したりしないのですが、ぼくは満洲生まれで、そこは冬がとてもきびしいところでした。」

と始めて、自分にとってエドガー・アラン・ポーがどんなに大切な、最初に物語の本質を教えてくれた作家であるかを述べています（全集第24巻、475ページ下段）。ルイス・キャロルは、ポーの次に好きだとも、言っております。一読をお奨めします。（「『魔法のチョーク』論」もぐら通信第52号）」

ネット・メディア論

岩田英哉

目次

- 0。はじめに
- 1。国家とは何か
- 2。用語の定義
- 3。メディアとは何か
 - 3.1 マス・メディアとは何か（20世紀）
 - 3.1.1 マス・ジャーナリズムとは何か
 - 3.1.2 マス・メディアとプロパガンダ
 - 3.2 ネット・メディアとは何か（21世紀）
 - 3.2.1 ネット・ジャーナリズムとは何か
 - 3.2.2 ネット・メディアとプロパガンダ
- 4。ネット・モナド論
 - 4.1 ネット・モナドの概念と定義
 - 4.2 世界観としてのメディア
 - 4.2.1 世界観としてのマス・メディア
 - 4.2.2 世界観としてのネット・メディア
- 5。二階層戦争論とメディア論の関係
- 6。私たちは如何に生きるべきか

待て、しばし、次号まで

縄文紀元論
Topologyで日本人を読み解く
(2)

岩田英哉

目次

I 《わたし》とは何か、《わたし》は何処にゐるか

1. 安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」について
2. 海外の数学者の認識する扇といふ名前のtopologyの実例
3. 《わたし》は何処にゐるか
4. 《わたし》は、宇摩志葦牙比古遲（うましあしかびひこち）の神である
5. 宇摩志葦牙比古遲神とは何か
6. 超越論のおさらひ
7. 超越論で伊勢物語を読む
8. みやびとは何か：みやびの概念
9. 現代にみやびの概念を適用する

待て、しばし、次号まで

II 超越論とtopologyの関係再説：日本民族の哲学と数学：神道とは何か

III Topologyと縄文土器

1. 紋様とは何か
2. 縄文土器の構成要素
3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる
4. 縄文土器は三階層で出来てゐる
5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある
6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる
7. メディア（媒体）としての縄文土器
8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる
9. メディア（媒体）としての弥生式土器
10. 縄文土器と弥生式土器の関係（topologicalな連続性）：3（奇数）から2（偶数）へ
11. 銅鐸は7階層で出来てゐる
12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治：土器と政治の一体と分離：銅鐸とは何か1
13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済：土器と経済の一体と分離：銅鐸とは何か2

IV アメリカとは何か

1. 【結論】アメリカはマジシャンズ・セレクトする国である
2. 『菊と刀』は日本民族の何が理解できなかつたか
3. 日本人の書いたアメリカ論はアメリカとアメリカ人の何が理解できなかつたか
4. アメリカ人の書いたアメリカ論はアメリカとアメリカ人をどのように理解したか

VII 二十世紀の幕を閉じるための結語

連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～＊
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライブニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉冉伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解読する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエーター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
 - ① 安部公房とデカルト：cogito ergo sum
 - ② 安部公房とライブニッツ：汎神論的存在論
 - ③ 安部公房とジャック・デリダ：郵便的（postal）意思疎通と差異
 - ④ 安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
 - ⑤ 安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人（strangers in the night）
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》〈 〉（ ）〔 〕「 」『 』「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりぎりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりぎりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりぎりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと座霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をはらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（はらひことば）をtopologyで読み解く：
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

●『周辺飛行』論（19）：意味もなく視線を宙におよがせる——周辺飛行16：安部公房の思考論理と実践の徹底性たるやないですね。ここまでやる/できる作家はなかなかみないでせう。そして安部公房スタジオで成果をあげた。読者は安部公房といふ人間を信頼することができる。といふ事は、そのやうな人間の作品の読者であられるといふ事は幸ひである。●全自動ベビーカーのデッドヒート：第三回 発狂するのは誰、見るのは私：木石岳：狂気を正面から書かうといふ読者は多分安部公房の読者の他には少ないのではないかと思はれる。何故なら、安部公房の読者たちはみなどこか必ず「生きるために安部公房を読んでゐる」からです。今回の木石さんの痴漢の意識と視線の構造は、初期安部公房の『夢の兵士』といふ短編小説を連想させました。とくれば、戯曲『幽霊』もまた然り。私を観る私といふ構造は、安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」にほかなりません。中学時代に実際にダンボール箱で箱男の箱を製作したといふ逸話は事実であつて、この格好で1日を学校の内と帰路にあつて、過ごしたといふのは、私は凄いいふ以外の言葉を知りません。しかし、私も同じ毎日をさうやつて送つてゐる。あなたも、さうである。それに痴漢といふ行為は、窃視とエロス（性欲の意味のみならず、身体を通じた高度な抽象思考能力を有する知性）の關係に、安部公房の話法構造にまで至ると、深く通じてゐる。この關係を否定する人は三島由紀夫も同時に否定することになります。そして、この通俗的な世間的にあり得る事実もまた私たち読者のなんたるかを表してゐます。木石さんの文章、いい文章でした。●安部公房のアメリカ論（4）：アメリカ人は冷戦が始まると何故いつもUFOを目撃するのか？：年来疑問のUFOとは何かといふ問に正面から答へることができたと思ふ。面白い読み物になりました。●サンチョ・パンサを求めて（3）：福田恆存の批評と現代と共産主義者の思考欠陥：福田恆存の批評を読んでゐて、此の一文が生まれました。この批評家の言葉には力があるといふことです。腑抜けた文章からは実際に何も生まれないのです。何も触発される事がないから。●リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（49）：第2部 XXIV：“ああ、このよろこび、いつも新しく、緩（ゆる）くした粘土の中から生まれてくる。”：やはりリルケの『涙の壺』は素晴らしい作品で、初期安部公房が愛唱したことはよく理解することができます。あなたにも折に触れ読んでもらひたい。安部公房を理解するために。●ネット・メディア論（2）：マス・メディアとは何か（20世紀）：次号とします。●縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（2）：I《わたし》とは何か、《わたし》は何処にゐるか：次号とします。●では、また、次号

差出人：

鷹安部公房

〒182-0003東京都調布
市若葉町「閉ざされた無
限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

1. 『周辺飛行』論（21）
2. 安部公房の縄文紀元論（1）：一般論
3. 私の本棚：西尾幹二著『あなたは自由か』を読む～自由と奴隷について～
4. 哲学の問題101（11）：愛（Liebe：リーベ）
5. 大久保房雄を読む（1）：文壇とは何であつたか
6. リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（55）
7. サンチョ・パンサを求めて（4）：ドーナツの穴になつた話

【本誌の主な献呈送付先】

本誌の趣旨を広く各界にご理解いただくために、安部公房縁りの方、有識者の方などに僭越ながら本誌をお届けしました。ご高覧いただけるとありがたく存じます。（順不同）

近藤一弥様、池田龍雄様、中田耕治様、宮西忠正様（新潮社）、北川幹雄様、加藤弘一様、平野啓一郎様、巽孝之様、鳥羽耕史様、友田義行様、内藤由直様、番場寛様、田中裕之様、中野和典様、坂堅太様、ヤマザキマリ様、小島秀夫様、頭木弘樹様、高旗浩志様、島田雅彦様、赤田康和様（朝日新聞社）、富田武子様（岩波書店）、待田晋哉様（読売新聞社）

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。

4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

